

CVMによる経済評価

CVM とは

CVM (Contingent Valuation Method: 仮想評価法) とは、財の内容を説明した上で、その価値を増大させるために費用を支払う必要がある場合に個人や世帯が支払ってもよいと考える金額 (WTP (Willingness to Pay: 支払意思額))、あるいはその財が悪化してしまった場合に悪化しなかった場合の便益を補償してもらうのに必要な補償金額 (WTA (Willingness to Accept: 受入補償額)) を直接的に質問する方法である。

CVM は、経済単位を世帯とみなし、世帯をベースとした便益評価を行う場合が多い。このため、具体的な便益計測においては、効果の及ぶ地域(「受益範囲」という)内から、平均 WTP の集計対象とする地域(「集計範囲」という)を設定し、アンケート調査等で計測した集計範囲内の一世帯当たり WTP と、集計範囲内の世帯数(「集計世帯数」という)を把握し、両者の積を求め、それに効果の及ぶ期間(「評価期間」という)を乗じて便益を算定する。

表 1 効果(価値)を計測する各評価手法の概要(参考)

	評価手法	手法の概要	課題
顕示 選好法	旅行費用法 (トラベルコスト法: TCM)	施設を訪れる人が支出する交通費や費やす時間をもとに効果の価値を計測する手法である。レクリエーション行動に基づく分析手法であるため、観光地などのレクリエーションに関する価値の分析に適する。	レクリエーション行動に結びつかない価値(歴史的・文化的に貴重な施設の存在価値)の計測は困難である。
	代替法	評価対象とする事業と同様の便益をもたらす他の市場財の価格をもとに便益を計測する手法である。	適切な代替財が設定できない場合は適用できない。
	ヘドニック・アプローチ法	整備効果は地価に帰着するという仮説のもと、地価関数を推計し、整備による地価の変化により価値を計測する。	地価関数で評価可能な指標に限られる。
表明 選好法	仮想的市場評価法 (CVM)	環境の変化など、貨幣換算が難しい効果の価値をアンケートにより把握する手法である。具体的には、整備による環境の変化に対し「いくらまで支払えるか」という質問を行い、効果を定量的に把握する手法である。	アンケート調査を行う必要があるため、適切な手順、アンケート内容にしないとバイアスが発生し、推計精度が低下する。
	コンジョイント分析	CVMと同様に、アンケート調査により貨幣換算が難しい環境の変化の価値を把握する手法であるが、価値を一括で尋ねるCVMに対し、価値を構成する複数の要素の価値についても把握できる点で相違がある。	CVMと同様である。

顕示選好法: 人々の経済活動をもとに間接的に価値を計測

表明選好法: 人々に対象の価値を尋ね直接的に価値を計測

出典: 「水源環境保全・再生施策に係る経済価値評価及び経済的手法による県民意識調査委託業務 報告書」(平成27年3月)

表 2 CVM とコンジョイント分析のメリット・デメリット（参考）

	CVM	コンジョイント分析
手法の概要	環境の変化など、貨幣換算が難しい効果の価値をアンケートにより把握する手法である。具体的には、整備による環境の変化に対し「いくらまで支払えるか」という質問を行い、効果を定量的に把握する手法である。	CVMと同様に、アンケート調査により貨幣換算が難しい環境の変化の価値を把握する手法であるが、価値を一括で尋ねるCVMに対し、価値を構成する複数の要素の価値についても把握できる点で相違がある。
共通	利用・非利用価値を問わず計測できる反面、恣意性が入りやすく、アンケートの調査設計は入念に行う必要がある。	
メリット	国土交通省の河川環境評価等において評価マニュアルが策定されており、事例も多数存在する。 支払額の回答方式を支払カード方式、多段階二項選択方式とする場合は、1種類の調査票の作成で済む。	支払意思を構成する要素毎の価値が把握できる。
デメリット	複数の効果を一括でしか把握できない。ただし、AHP※等を併用することで、価値を構成する複数の要素のウェイトを把握することが可能。 ※AHP（Analytic Hierarchy Process）階層段階法といわれており、複数の要素の相対的な重要度（優先順位）を定量的に計測するために個人に対して調査する手法。	国土交通省等による評価マニュアルが策定されておらず、CVMに比べて事例も少ない。評価する効果（属性）と提示する水準数によっては多数の設問を必要とするため、回答者の負担を軽減するには複数の調査票が必要となる。 分析結果によっては有意水準等を確保できず、WTP（支払意思額）が算出できない効果項目の出現が懸念される。

出典：「水源環境保全・再生施策に係る経済価値評価及び経済的手法による県民意識調査委託業務 報告書」（平成27年3月）

・評価の目的

施策実施に伴う水源保全地域の経済的価値の向上（差分）について、経済的な手法を用いて評価することで、特別対策事業（水源環境保全税充当事業）だけでなく、水源地域において実施される様々な関連事業（施策大綱構成事業）の効果も捉えた、包括的な評価結果を得ることを目的とし、第4期計画期に「経済的手法による施策評価」を実施した。

評価方法

評価方法は、市場価格に反映されない環境サービスの変化などの価値に関する支払意思額（最大支払っても構わない金額）等をアンケートにより直接人々に尋ね、その結果を集計・分析して評価結果を出す手法である、CVM（仮想的市場評価法）を使って実施した。

予備調査

予備調査の概要

予備調査は、本調査と同範囲の被験者を対象に実施するものとし、本調査の実施に向け「調査票の分かりやすさの向上」、「WTPの提示額の確認」を行った。

表 3 令和4年度アンケート調査の実施概要（案）

項目	実施内容
予備調査	- 調査の目的 : 提示額の確認、調査票のわかりやすさの向上 - サンプル回収方法 : WEBアンケート - 支払意思額の回答方式 : 二段階二項選択方式 - 回収サンプル数 : 300票 - 配布範囲 : 県内5地区（均等割付：60票ずつ） - 提示額（月額） : 100円、500円、1000円、2,000円、5,000円、10,000円 - 実施時期 : 令和4年9月頃

(1) 提示額について

提示額（月額）は、平成26年度アンケート調査（本調査）のWTP推計結果を参考に、表 3-5 に示す100円、500円、1,000円、2,000円、5,000円、10,000円を設定した。

表 4 提示額（月額）

	一段階	二段階	
		一段階が「はい」の場合	一段階が「いいえ」の場合
ケース1	500円（年間6,000円）	1,000円（年間12,000円）	100円（年間1,200円）
ケース2	1,000円（年間12,000円）	2,000円（年間24,000円）	500円（年間6,000円）
ケース3	2,000円（年間24,000円）	5,000円（年間60,000円）	1,000円（年間12,000円）
ケース4	5,000円（年間60,000円）	10,000円（年間120,000円）	2,000円（年間24,000円）

(2) アンケート調査票を配布する対象者（予備調査）

配布範囲は、表 3-6に示す神奈川県在住の20歳以上、5地区を対象とした。

地域の意見を収集するため、人口分布にあうように年齢構成比のバランスを考慮し、サンプル数を設定することが望ましいことから、年齢構成を考慮した。その割付は、表 3-7のとおりである。

表 5 予備調査の配布範囲（県内 5 地区）

地区	市町村
1 横浜・川崎地区	横浜市・川崎市
2 横須賀三浦地区	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
3 県央地区	相模原市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村
4 湘南地区	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町
5 県西地区	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町

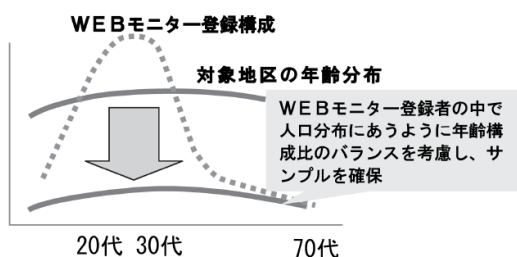


図 3-1 年齢構成の割付による工夫

表 6 予備調査における目標回収サンプル数

地区	20代	30代	40代	50代	60代以上	目標回収サンプル数
横浜・川崎地区	8	9	11	11	21	60
横須賀三浦地区	6	6	10	11	27	60
県央地区	7	8	11	11	23	60
湘南地区	7	8	11	11	24	60
県西地区	6	7	10	10	28	60
						300

アンケート分析結果

予備調査は、本調査と同範囲の被験者を対象に実施するものとし、本調査の実施に向け「調査票の分かりやすさの向上」、「WTPの提示額の確認」を目的に行った。

結果概要は表 3-8に示すとおりである。

アンケートの分かりづらいつ点については、主に、「説明が分かりづらい」や「文章が長い、文字が多い」といった意見であった。

自由意見は、過半数が事業に関する肯定的な意見であり、アンケートにより事業を知った方も多数おり、事業の周知やアピール等の情報発信を求める意見が多かった。

表 7 結果概要（予備調査）

項目		前回結果 (平成26年度)	今回結果（令和4年度）	
			事業理解度の設問あり	事業理解度の設問なし
回収数		300票	300票	300票
有効回答数		246票	188票	260票
有効回答率		82.0%	62.7%	86.7%
推定 WTP	対数線形ロジットモデル	中央値 623円/月 平均値 1,369円/月	中央値 678円/月 平均値 1,411円/月	中央値 539円/月 平均値 1,344円/月
	ワイブル生存分析	中央値 648円/月 平均値 1,227円/月	中央値 694円/月 平均値 1,286円/月	中央値 544円/月 平均値 1,187円/月
無効回答判断		・問5で「6」、問6で「3」と回答した人を除く	・問7で「6」、問8で「3」と回答した人を除く ・問2で「3」、問3で「2」と回答した以外の人を除く	・問7で「6」、問8で「3」と回答した人を除く

(3) 本調査アンケートの修正対応について

アンケートの修正対応については、回答を踏まえ、アンケート調査票の文字サイズを大きくし、画像は高画質な写真に差替える等のわかりやすさの向上を図った。

事業理解度の設問は、回答者がより取組内容を理解した上で、支払意思額を回答することから、本調査でも同様の内容の設問を入れることとした。

(4) アンケートの分かりづらい点について

アンケートのわかりやすさ向上のため、アンケート内容について「分かりづらい点、答えづらい点」に関する質問（問24、問56）を設けた。

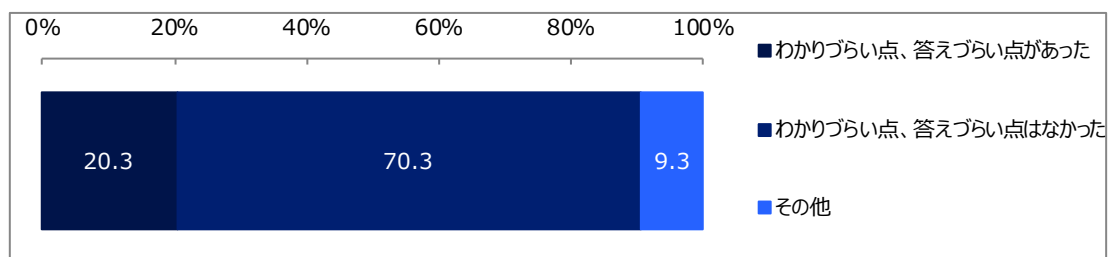
それぞれの回答は、以下に示すとおりである。

1) WTP の設問までの取組説明について

アンケート（支払意思額の設問までの説明）の「分かりづらい点、答えづらい点があった」は、全体の20%であった。

分かりづらい点としては、主に、「説明が分かりづらい」や「文章が長い、文字が多い」といった意見であった。

問24：前半部分のアンケートの内容についてわかりづらい点や答えにくい点がありましたか。



	n	%
全体	300	100.0
わかりづらい点、答えづらい点があった	61	20.3
わかりづらい点、答えづらい点はなかった	211	70.3
その他	28	9.3

【主な指摘内容】

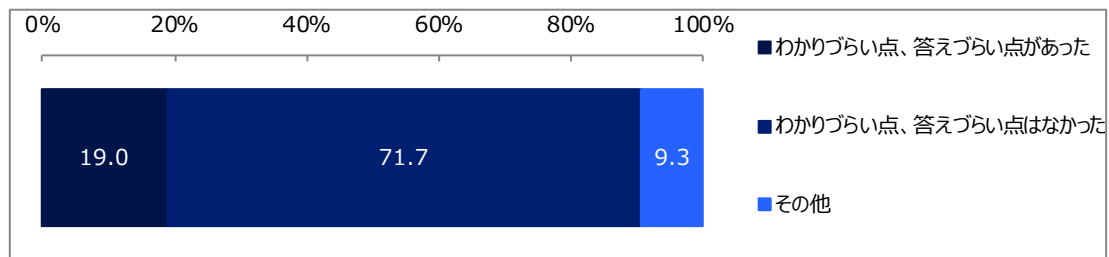
- ・説明が分かりづらい。
- ・文章が多すぎて分かりづらい。
- ・内容が難しい。
- ・説明が詳細で正確だとは思いますが、もう少しポイントを絞って大きな文字で表記したほうがよい。
- ・画像が見づらかった。
- ・問題形式は、分かりにくい。

2) 特別対策事業に関する説明について

アンケート（特別対策事業の認知度・重要度に関する説明）の「分かりづらい点、答えづらい点があった」は、全体の20%であった。

分かりづらい点としては、主に、「文章が多い」や「内容が難しい」といった意見であった。

問56：後半部分のアンケートの内容についてわかりづらい点や答えにくい点がありましたか。



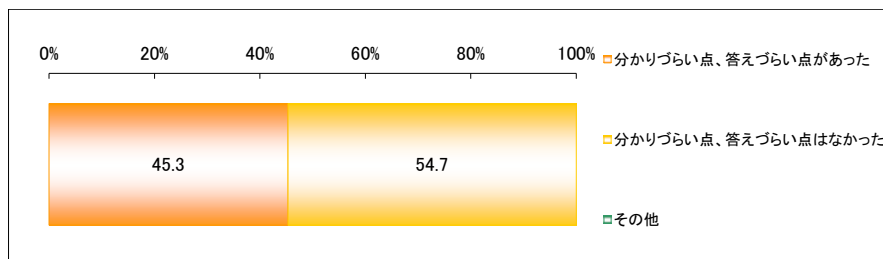
	n	%
全体	300	100.0
わかりづらい点、答えづらい点があった	57	19.0
わかりづらい点、答えづらい点はなかった	215	71.7
その他	28	9.3

【主な指摘内容】

- ・文章が多すぎて分かりづらい。
- ・内容が難しい。
- ・内容が盛りだくさん過ぎる。
- ・税率の算出方法が不明確
- ・写真と説明の配置が分かりづらい。

【参考】平成26年度予備調査アンケート（分かりづらい点）

問 38：分かりづらい点答えにくい点の有無



	n	%
全体	300	100.0
分かりづらい点、答えづらい点があった	136	45.3
分かりづらい点、答えづらい点はなかった	164	54.7
その他	0	0.0

3) 自由意見

自由意見は、144件であった（特になし等を除く）。集計にあたっては、肯定的な意見と行政への要望等の重複を含む。

肯定的な意見は過半数を占めていた。予備調査のアンケートにより事業を知った方も多数おり、事業の周知やアピール等の情報発信を求める意見が多かった。

表 8 自由意見の概要

意見	件数	割合
事業に肯定的な意見	88件	61.1%
事業に関する行政への要望	54件	37.5%
財源に対する意見	26件	18.8%
事業に否定的な意見	6件	4.9%
アンケートの負担金に対する意見	2件	2.1%
アンケート全般に対する意見	3件	1.4%

【参考】平成26年度の予備調査アンケート（自由意見）

問40：自由意見（93件（特になしを除く））

事業に肯定的な意見	48件	51.6%
事業に関する行政への要望	37件	39.8%
財源に対する意見	19件	20.4%
事業に否定的な意見	4件	4.3%
アンケートの負担金に対する意見	4件	4.3%
アンケート全般に対する意見	9件	9.7%

(5) WTP 推定

本調査で提示する負担額を精査するために、予備調査の WTP を推定した。

WTP の推定は、「Excel でできるCVM (Version4.0)」を活用した。

1) 有効回答の抽出

アンケートの内容を理解せず、支払意志額を回答したサンプルを除外するため、問7と問8の回答を用いてWTP推定に不適切なサンプルを抽出した。

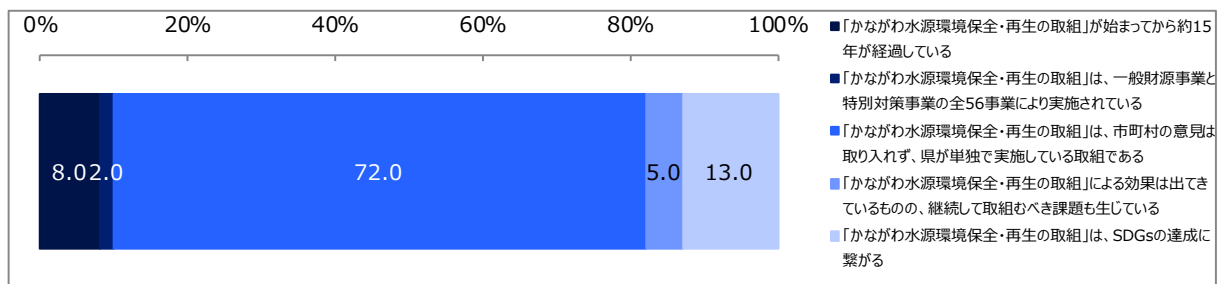
また、アンケートの内容の理解度を確認するため、問2と問3の回答を用いてWTP推定に不適切なサンプルを除外した。

有効サンプルは、表 9に示すとおりである。

表 9 有効サンプル

項目	前回結果 (平成26年度)	今回結果 (令和4年度)	
		事業理解度の設問あり	事業理解度の設問なし
回収数	300票	300票	300票
有効回答数	246票	188票	260票
有効回答率	82.0%	62.7%	86.7%
無効回答判断	・問5で「6」、問6で「3」と回答した人を除く	・問7で「6」、問8で「3」と回答した人を除く ・問2で「3」、問3で「2」と回答した以外の人を除く	・問7で「6」、問8で「3」と回答した人を除く

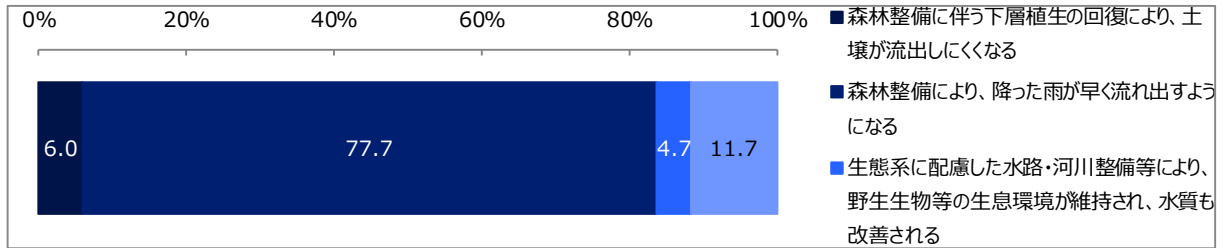
【問 2】



	n	%
全体	300	100
「かながわ水源環境保全・再生の取組」が始まってから約 15 年が経過している	24	8.0
「かながわ水源環境保全・再生の取組」は、一般財源事業と特別対策事業の全 56 事業により実施されている	6	2.0
「かながわ水源環境保全・再生の取組」は、市町村の意見は取り入れず、県が単独で実施している取組である	216	72.0
「かながわ水源環境保全・再生の取組」による効果は出てきているものの、継続して取組むべき課題も生じている	15	5.0
「かながわ水源環境保全・再生の取組」は、SDGs の達成に繋がる	39	13.0

※赤字を回答した場合、不適切なサンプルと判断

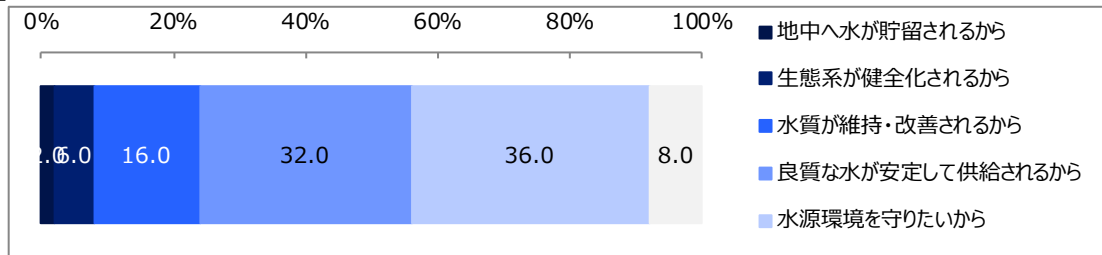
【問 3】



	n	%
全体	300	100
森林整備に伴う下層植生の回復により、土壌が流出しにくくなる	18	6.0
森林整備により、降った雨が早く流れ出すようになる	233	77.7
生態系に配慮した水路・河川整備等により、野生生物等の生息環境が維持され、水質も改善される	14	4.7
生活排水対策や地下水の水位・水質の維持により、水源水質が維持される	35	11.7

※赤字を回答した場合、不適切なサンプルと判断

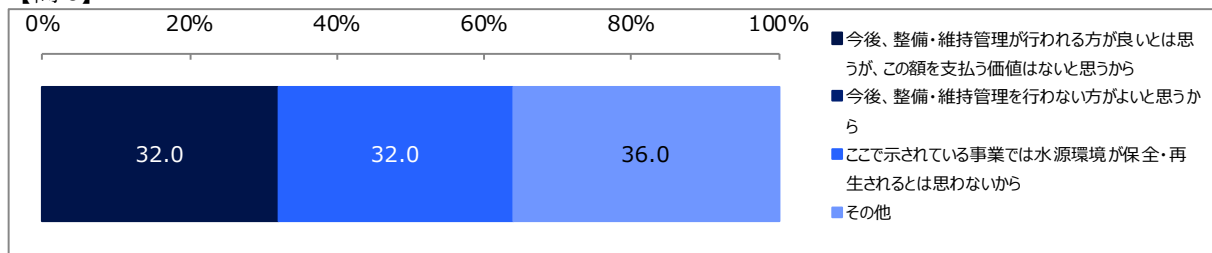
【問 7】



	n	%
全体	50	100.0
地中へ水が貯留されるから	1	2.0
生態系が健全化されるから	3	6.0
水質が維持・改善されるから	8	16.0
良質な水が安定して供給されるから	16	32.0
水源環境を守りたいから	18	36.0
水源環境の保全・再生の必要性は感じないが、皆のために役立ちたいから	4	8.0
その他	0	0.0

※赤字を回答した場合、不適切なサンプルと判断

【問 8】



	n	%
全体	25	100.0
今後、整備・維持管理が行われる方がよいと思うが、この額を支払う価値はないと思うから	8	32.0
今後、整備・維持管理を行わない方がよいと思うから	0	0.0
ここで示されている事業では水源環境が保全・再生されるとは思わないから	8	32.0
その他	9	36.0

※赤字を回答した場合、不適切なサンプルと判断

2) WTP 推定

本調査における提示額を検討するためパラメトリック法によりWTP を推計した。

「1)有効回答の抽出」で整理した有効サンプルを用いて WTP を推計し、WTP 平均値を算出する場合は、過大評価を避けるため最大提示額で裾切りを行った。

表 10 WTP 推定値

		n 数	対数線形ロジットモデル			ワイブル生存分析		
			対数尤度	WTP (円/月)		対数尤度	WTP (円/月)	
				中央値	平均値※3		中央値	平均値※3
前回結果 (平成26年度)		246	-309.35	623	1,369	-306.03	648	1,227
今回 結果 (令和4 年度)	事業理解 度の設問 あり※1	188	-226.755	678	1,411	-226.579	694	1,286
	事業理解 度の設問 なし※2	260	-315.301	539	1,344	-312.110	544	1,187

※1：問7で「6」または問8で「3」と回答した回答者、問2で「3」、問3で「2」と回答した回答者をすべて除外。

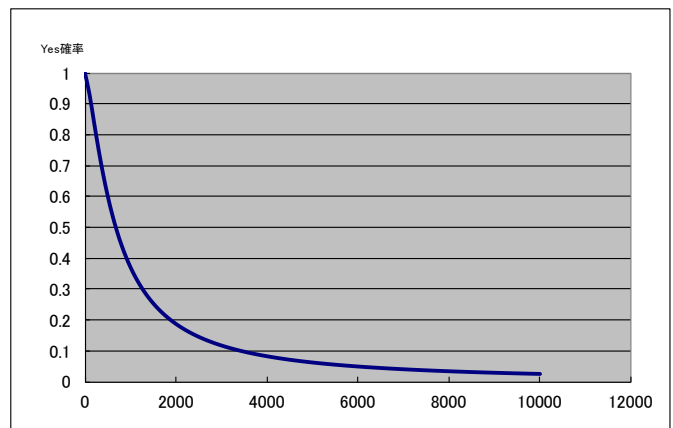
※2：問7で「6」または問8で「3」と回答した回答者をすべて除外。

※3：裾切りあり

■有効サンプルによる WTP 推計結果

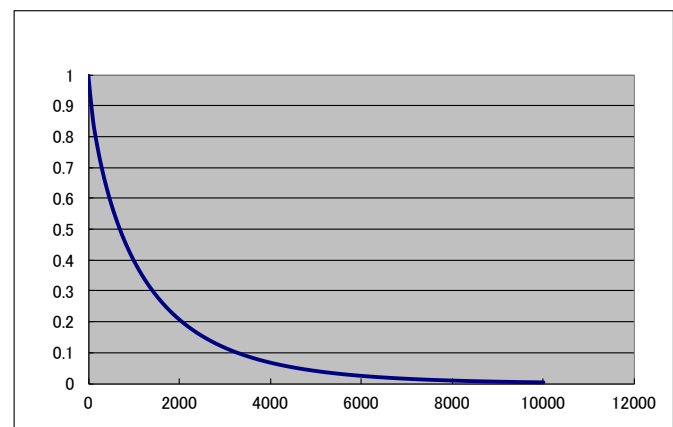
【対数線形ロジットモデル】

変数	係数	t値	p値	
constant	8.8467	11.018	0.000	***
ln(Bid)	-1.3571	-11.480	0.000	***
n	188			
対数尤度	-226.755			
WTP	円/月	円/年		
中央値	678	8,136		
平均値	2,133	25,596	裾切りなし	
	1,411	16,932	最大提示額で裾切り	



【ワイブル生存分析】

変数	係数	t値	p値	
Location	7.0159	59.658	0.000	***
Scale	1.2935	12.579	0.000	***
n	188			
対数尤度	-226.579			
WTP	円/月	円/年		
中央値	694	8,328		
平均値	1,295	15,540	裾切りなし	
	1,286	15,432	最大提示額で裾切り	

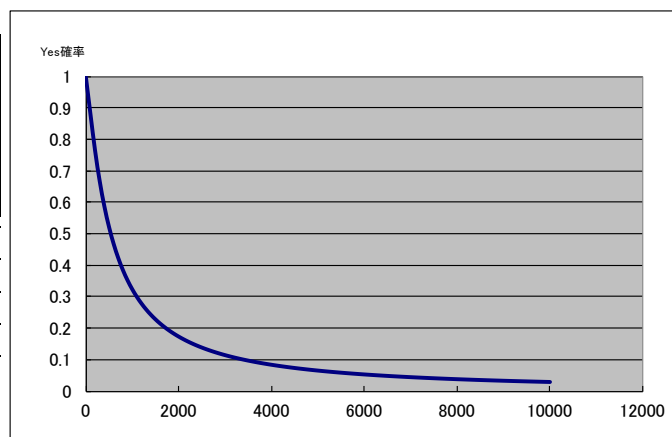


■有効サンプルによる WTP 推計結果（参考）

【対数線形ロジットモデル】

変数	係数	t値	p値	
constant	7.4616	12.550	0.000	***
ln(Bid)	-1.1862	-13.078	0.000	***
n	260			
対数尤度	-315.301			

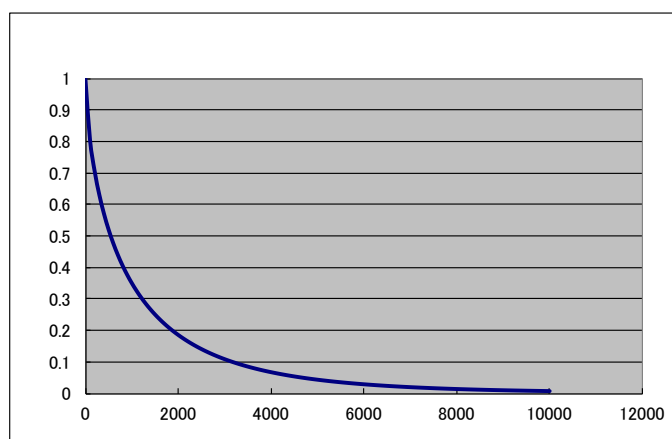
WTP	円/月	円/年	
中央値	539	6,468	
平均値	3,018	36,216	裾切りなし
	1,344	16,128	最大提示額で裾切り



【ワイブル生存分析】

変数	係数	t値	p値	
Location	6.8341	60.680	0.000	***
Scale	1.4625	14.949	0.000	***
n	260			
対数尤度	-312.110			

WTP	円/月	円/月	
中央値	544	6,528	
平均値	1,203	14,436	裾切りなし
	1,187	14,244	最大提示額で裾切り



(6) 本調査における提示額の設定

予備調査における回答で全ての提示額での支払いの回答が確認された。

本調査では、表 3-15の賛成率を踏まえ、平成26年度アンケート調査と同様の最大提示額を5,000円/月（60,000円/年）とし、6段階（100円、200円、500円、1,000円、2,000円、5,000円）の提示額を設定した。

表 11 支払金額における賛成率

金額 (円/月)	前回結果 (平成26年度)		今回結果（令和4年度）			
			事業理解度の設問あり		事業理解度の設問なし	
	支払人数	賛成率	支払人数	賛成率	支払人数	賛成率
0	108	43.9%	87	46.5%	131	50.4%
100	22	8.9%	14	7.5%	18	6.9%
500	39	15.9%	27	14.4%	36	13.8%
1,000	37	15.0%	27	14.4%	34	13.1%
2,000	29	11.8%	24	12.8%	31	11.9%
5,000	11	4.5%	7	3.7%	8	3.1%
10,000	0	0.0%	1	0.5%	2	0.8%
合計	246	100%	187	100%	260	100%

本調査

本調査の概要

令和4年度アンケート調査（本調査）の実施概要は表 12に示すとおりである。

本調査は、予備調査におけるWTP推計結果を踏まえ、提示額の修正等を行い、実施した。

本調査は、「取組に対する県民の支払意思額の推計」、「特別対策事業に関する認知度や重要度の分析」を目的に行った。

表 12 令和4年度アンケート調査（本調査）の実施概要

項目	実施内容
本調査	- 本調査の目的 : 県民の取組みに対する支払意思額（WTP）の推計、特別対策事業に関する認知度や重要度の分析 - サンプル回収方法 : WEBアンケート - 支払意思額の回答方式 : 二段階二項選択方式 - 回収サンプル数 : 800票 - 配布範囲 : 県内33自治体（世帯数割合で割付、年齢構成考慮） - 提示額（月額） : 100円、200円、500円、1000円、2,000円、5,000円 - 実施時期 : 令和4年12月22日（木）～令和4年12月28日（水）

表 13 県内 33 市町村

	地区	市町村	
1	横浜・川崎地区	横浜市・川崎市	
2	横須賀三浦地区	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	
3	県央地区	相模原市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	
4	湘南地区	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	
5	県西地区	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	

(7) アンケート調査票を配布する対象者

配布範囲は、神奈川県在住の20歳以上、33自治体を対象とした。

各自治体における目標回収サンプル数は、住民数割合と年齢構成を考慮した。

条件は、以下のとおりである。

- 各自治体の世帯数割合に応じ、目標回収数を決定する。
- 各自治体の世帯数構成比による回収数が8サンプル未満（世帯数構成比が1%未満）の自治体の目標回収数は8サンプルとし、目標回収数（800票）を超える分については、横浜市の目標回収数を減らすことで調整する。
- 年齢構成は、主に横浜市等の世帯数が多い5市で調整し、神奈川県全体の割合に合わせる。
- 回収が困難な自治体は同地区内の隣接自治体等で補填する。

表 14 R4 年度本調査における目標回収数

	地区	モニター数	モニター回収想定数		世帯数 R4.10.1現在	世帯数 構成比	目標 回収数 (調整前)	目標 回収数 (調整後)	
			全体	20代以上					
1	横浜市	1	81,242	8,826	8,826	1,781,879	41.4%	331	227
2	川崎市	1	34,945	3,661	3,661	762,765	17.7%	142	142
3	横須賀市	2	6,863	757	757	165,968	3.9%	31	31
4	鎌倉市	2	3,573	401	401	76,939	1.8%	14	14
5	逗子市	2	1,155	126	126	25,128	0.6%	5	8
6	三浦市	2	549	57	57	17,214	0.4%	3	8
7	葉山町	2	514	54	54	13,123	0.3%	2	8
8	相模原市	3	13,911	1,497	1,497	341,725	7.9%	63	63
9	厚木市	3	4,097	439	439	103,411	2.4%	19	19
10	大和市	3	5,286	561	561	114,194	2.7%	21	21
11	海老名市	3	2,610	277	277	60,879	1.4%	11	11
12	座間市	3	2,572	278	278	61,382	1.4%	11	11
13	綾瀬市	3	1,425	150	150	35,305	0.8%	7	8
14	愛川町	3	515	54	54	17,431	0.4%	3	8
15	清川村	3	36	0	0	1,134	0.0%	0	8
16	平塚市	4	4,593	493	493	114,746	2.7%	21	21
17	藤沢市	4	9,222	1,000	1,000	200,139	4.6%	37	37
18	茅ヶ崎市	4	4,789	524	524	105,611	2.5%	20	20
19	秦野市	4	2,746	297	297	72,002	1.7%	13	13
20	伊勢原市	4	1,780	187	187	46,366	1.1%	9	9
21	寒川町	4	795	81	81	20,439	0.5%	4	8
22	大磯町	4	530	57	57	12,880	0.3%	2	8
23	二宮町	4	480	49	49	11,654	0.3%	2	8
24	小田原市	5	3,088	330	330	83,701	1.9%	16	16
25	南足柄市	5	605	63	63	16,550	0.4%	3	8
26	中井町	5	111	6	6	3,458	0.1%	1	8
27	大井町	5	249	21	21	6,961	0.2%	1	8
28	松田町	5	135	8	8	4,516	0.1%	1	8
29	山北町	5	105	6	6	3,916	0.1%	1	8
30	開成町	5	294	25	25	7,234	0.2%	1	8
31	箱根町	5	196	14	14	6,339	0.1%	1	8
32	真鶴町	5	119	8	8	2,946	0.1%	1	8
33	湯河原町	5	407	41	41	10,780	0.3%	2	8
	合計		189,537	20,348	20,348	4,308,715	100.0%	800	800

※黄色塗りつぶしは、世帯数が多い上位5市を示す。

(8) 本調査のアンケート票

「あなたご自身に関するアンケート」一覧プレビュー

通常表示



あなたご自身に関するアンケート

モニターの皆様へのお願い

本アンケートには、一般に公開していない情報が含まれる場合があります。

アンケート内で知り得た情報について、決して第三者に口外しないよう、お願いします。

「第三者への口外」に含まれる例

- 口頭、電話、メール等で友人・知人に話す
- SNSやブログ、掲示板等へ書き込む
- その他、手段を問わず、情報を第三者に伝達する行為

注意事項

- 複数のアンケート画面を同時に開くと、正常に回答できません。
アンケートはひとつずつ、回答ください。
- アンケートへの回答は、「動作環境」に記載の環境からお願いします。
- 本アンケートは、回答を中断してから1時間以内は中断した質問から再開可能です。
(システム緊急対応等により再開できない場合もありますので、予めご了承ください。)
- 回答結果は、当社の「個人情報保護方針」に基づき、性別・年齢・居住都道府県等を付記した上で、本アンケートの依頼主に提供されます。
アンケート内で個別に同意を得ない限り、氏名・メールアドレス等の個人を特定できる情報を提供することはありません。
- また、楽天インサイトは依頼主から回答や分析結果の一部を取得して、後日別の調査の案内を送付するために利用することがあります。
回答内容や分析結果に健康情報や疾患傾向等の要配慮個人情報が含まれていた場合、当社が当該要配慮個人情報を取得することがあります。

上記の内容をご確認いただき、同意してご協力いただける場合のみ、「同意し、アンケート開始」を押してアンケートを開始してください。

同意し、アンケート開始

SC1
必須

現在のあなたの居住地を以下の中からお選びください。

- | | | | | |
|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| ☐ 1. 横浜市 | ☐ 8. 相模原市 | ☐ 15. 清川村 | ☐ 22. 大磯町 | ☐ 29. 山北町 |
| ☐ 2. 川崎市 | ☐ 9. 厚木市 | ☐ 16. 平塚市 | ☐ 23. 二宮町 | ☐ 30. 開成町 |
| ☐ 3. 横須賀市 | ☐ 10. 大和市 | ☐ 17. 藤沢市 | ☐ 24. 小田原市 | ☐ 31. 箱根町 |
| ☐ 4. 鎌倉市 | ☐ 11. 海老名市 | ☐ 18. 茅ヶ崎市 | ☐ 25. 南足柄市 | ☐ 32. 真鶴町 |
| ☐ 5. 逗子市 | ☐ 12. 座間市 | ☐ 19. 秦野市 | ☐ 26. 中井町 | ☐ 33. 湯河原町 |
| ☐ 6. 三浦市 | ☐ 13. 綾瀬市 | ☐ 20. 伊勢原市 | ☐ 27. 大井町 | ☐ 34. 上記以外 |
| ☐ 7. 葉山町 | ☐ 14. 愛川町 | ☐ 21. 寒川町 | ☐ 28. 松田町 | |

次へ

■以下の画像をご覧になってから、お答えください。



『かながわ水源環境保全・再生の取組』に関するアンケート調査
ご協力をお願い

本調査



令和4年12月
神奈川県

皆様には、日ごろから県政に対してご理解とご協力をいただきまして、誠に有難うございます。

本県では、県民の皆様の「いのち」を育み、暮らしや経済活動を支える大切な資源である「水」を将来にわたって安定的に提供するため、平成17年に策定した「かながわ水源環境保全・再生施策大綱（平成19年～令和8年度の取組）」に基づき、5年ごとの具体的な実行計画を策定し、取組を推進しています。本年4月から施策大綱最後の5年間となる第4期実行5か年計画を開始しております。

そこで、これまで取り組んできた事業の内容と、実施に伴う効果を認識していただいたうえで、水源環境保全・再生の取組の成果が、皆様にとってどのくらいの価値があるかを、このアンケート調査によって把握したいと考えております。

このアンケート調査は、神奈川県在住で20歳以上の方を対象に調査を行っております。

お忙しいところお手数をおかけしますが、本アンケート調査の主旨をご理解いただき、ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

【ご回答にあたって】

- ・この調査にご回答いただいた内容は全て統計的に処理しますので、個々の数値やご意見が公表されることは決してありません。また、本調査の目的以外に使用することも決してありません。

[\[画像を拡大\]](#)

※ [\[画像を拡大\]](#) をクリックしていただくと拡大してご覧いただけます。

次へ

■水源環境保全・再生施策とは

●神奈川県では、施策を推進するための全体計画として「かながわ水源環境保全・再生施策大綱」、実行計画として「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」を定め、一般財源による事業とともに「水源環境保全税」による「特別対策事業」を実施しています。

事業の詳細はこちら↓

■第4期かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画【概要版】

https://www.pref.kanagawa.jp/documents/80518/4th_suigen-saisei.pdf

■事業実績一覧

<http://www.pref.kanagawa.jp/documents/63163/03-06-06.pdf>



図 施策体系

「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」の事業は、特別対策事業 + 一般財源事業による全 56 事業で実施しています。

[画像を拡大]

※ [画像を拡大] をクリックしていただくと拡大してご覧いただけます。

Q1 「かながわ水源環境保全・再生の取組」についてご存じでしたか。
必須 当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. そのような取組を行っていることを知っていた
- ☐ 2. 名称は聞いたことがあったが、取組内容までは知らなかった
- ☐ 3. まったく知らなかった

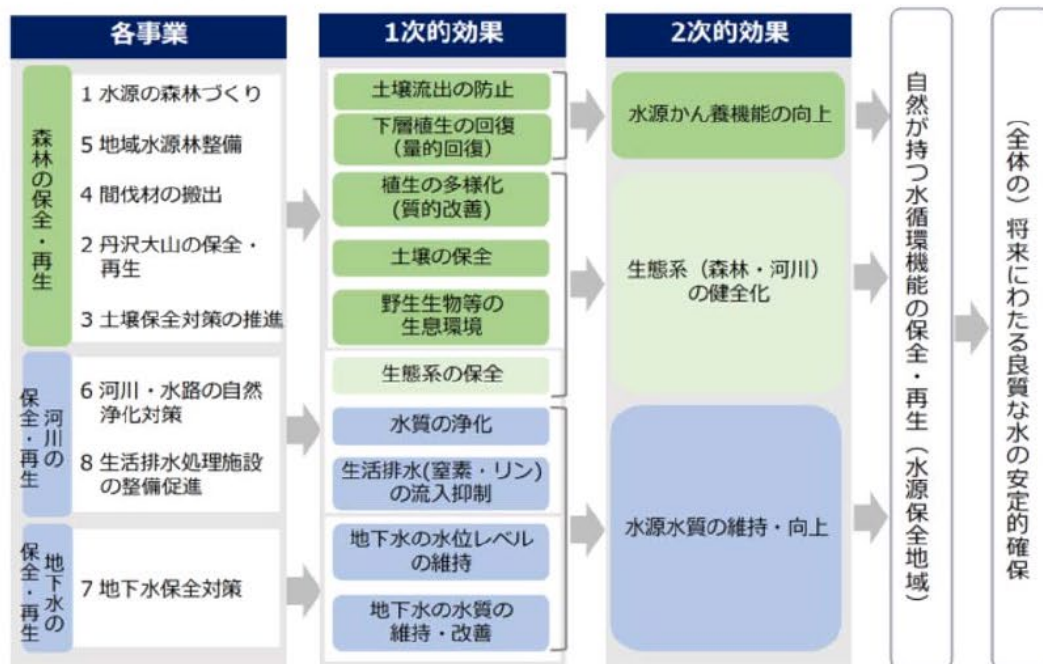
Q2 「かながわ水源環境保全・再生の取組」について示した以下の説明のうち、間違っているものが一つだけありますので、それをお選びください。

- ☐ 1. 「かながわ水源環境保全・再生の取組」が始まってから約15年が経過している
- ☐ 2. 「かながわ水源環境保全・再生の取組」は、一般財源事業と特別対策事業の全56事業により実施されている
- ☐ 3. 「かながわ水源環境保全・再生の取組」は、市町村の意見は取り入れず、県が単独で実施している取組である
- ☐ 4. 「かながわ水源環境保全・再生の取組」による効果は出てきているものの、継続して取組むべき課題も生じている
- ☐ 5. 「かながわ水源環境保全・再生の取組」は、SDGsの達成に繋がる

次へ

■かながわ水源環境保全・再生の取組による効果

- 水源環境における新たな課題に対応するため、水源環境保全税を活用して対策を進めてきました。事業の実施により発揮される効果（1 次的効果・2 次的効果）は以下の図に示すとおりです。



- 事業を実施した結果、計画期間 20 年間のうち、これまでのおおむね 15 年間に於いて、上の図の効果のうち、次に示すような変化が得られつつあります。

[画像を拡大]

(1) 水源かん養機能の向上

水源の森林づくりなどの森林整備等により下層植生が回復しており、降った雨が地中にしみこみ（水源かん養）土壌が流出しにくくなるほか、地中に貯留された水が下流へゆっくりと流れる効果が生じます。長期的には自然がもつ水循環機能の保全・再生が図られます（2次的効果）。

効果の詳細（定量的なデータ）を確認したい方はこちら↓

<http://www.pref.kanagawa.jp/documents/63163/03-06-02.pdf>

【下草の衰退】



【下草の回復】



[画像を拡大]



(2) 生態系（森林・河川）の健全化

下層植生の回復や土壌の保全により、地中への水の貯留（水源かん養）に加え、多様な動物や植物が生息・生育する環境が形成されています。

また、生態系に配慮した河川・水路の整備等により河川生態系の健全化が図られています（2次的効果）。

効果の詳細（定量的なデータ）を確認したい方はこちら↓

<http://www.pref.kanagawa.jp/documents/63163/03-06-02.pdf>

【生態系の劣化】



【生態系の健全化】



[画像を拡大]

(3) 水源水質の維持・向上

河川・水路の自然浄化対策や地下水を主要な水道水源としている地域における地下水保全対策、ダム集水域における生活排水対策（公共下水道・合併処理浄化槽の整備）を行うことにより、水源水質の維持・向上が図られています（2次的効果）。

効果の詳細（定量的なデータ）を確認したい方はこちら↓

<http://www.pref.kanagawa.jp/documents/63163/03-06-02.pdf>

【ダム湖・河川の水質の悪化】



【ダム湖・河川の水質の改善】



これらの2次的効果の発揮にともない、施策全体の目的である「将来にわたる良質な水の安定的確保」が継続的に図られています。

（実際に、事業実施区域周辺及び下流の水質（BOD、窒素、りん）は、事業開始以降改善傾向にあり、また渇水による取水制限は、本事業開始以降、県内で1度も行われていません。）

[\[画像を拡大\]](#)

※ [\[画像を拡大\]](#) をクリックしていただくと拡大してご覧いただけます。

Q3 必須 「かながわ水源環境保全・再生の取組」の効果について示した以下の説明のうち、間違っているものが一つだけありますので、それをお選びください。

- ☐ 1. 森林整備に伴う下層植生の回復により、土壌が流出しにくくなる
- ☐ 2. 森林整備により、降った雨が早く流れ出すようになる
- ☐ 3. 生態系に配慮した水路・河川整備等により、野生生物等の生息環境が維持され、水質も改善される
- ☐ 4. 生活排水対策や地下水の水位・水質の維持により、水源水質が維持される

次へ

■以下の画像をご覧になってから、お答えください。

ここからは仮想的な質問になります。

説明文をよくお読みになったうえでお答えください。

このアンケートでは「事業の効果を金額に置き換えて評価する」ための仮想的な質問となっています。回答にあたっては、あなたが、「仮想的に」以下の状況にあることを想像してください。

・これまで15年間にわたり実施された事業による効果を、今後も将来にわたって受け続けることができる

・通常、このような事業は税金を活用して行われているが、この効果を受けるため、各世帯から負担金を集めるような仕組みがある

(これはあくまでも事業の効果を評価するためのアンケート上の仮定であり、実際にこのような仕組みを実施するわけではありません。)

※ [\[画像を拡大\]](#) をクリックしていただくと拡大してご覧いただけます。

【状況 A(今後の整備・維持管理あり)】

- ・事業を行った後の状況(今の状況)を維持することができます。
- ・あなたの世帯からの負担金が必要です(神奈川県にお住まいの間、負担する必要があるとします)。

●水源かん養機能の向上

- ✓下草の回復
- ✓土壌流出の防止



●生態系の健全化

- ✓植生の多様化
- ✓野生生物等の生息環境の保全



●水源水質の維持・向上

- ✓ダム湖・河川の水質の改善
- ✓地下水の水量の確保



【状況 B(今後の整備・維持管理なし)】

- ・事業を行う前の状況(今の状況が悪化)に戻ってしまいます。
- ・あなたの世帯の負担は必要ありません。

●水源かん養機能の低下

- ✓下草の衰退
- ✓土壌の流出



●生態系の劣化

- ✓植生の多様性の低下
- ✓野生生物等の生息環境の劣化



●水源水質の低下

- ✓ダム湖・河川の水質の悪化
- ✓地下水の水量の減少



[\[画像を拡大\]](#)

次へ

Q4
必須

【状況A（今後の整備・維持管理あり）】の状況を維持するために、仮にあなたの世帯から負担金を支払っていただく必要があるとします。
負担金は神奈川県にお住いの間、負担していただくこととなり、回答した金額分だけあなたの世帯で使うことができるお金が減ることを念頭においてください。
また、負担金は説明にある整備と維持管理にのみ使われ、他の目的にはいっさい使われないものとします。
あなたの世帯では、月に200円（年間2,400円）の支払いに応じていただけますか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. はい
- ☐ 2. いいえ

次へ

Q5
必須

■前問で「1.はい」とお答えになった方にお伺いします■

月に500円（年間6,000円）の支払いであれば、あなたの世帯では応じていただけますか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. はい
- ☐ 2. いいえ

次へ

Q6
必須

■前問で「2.いいえ」とお答えになった方にお伺いします■

月に100円（年間1,200円）の支払いであれば、あなたの世帯では応じていただけますか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. はい
- ☐ 2. いいえ

次へ

Q7

必須

■先程、月に200円（年間2,400円）の支払い、または月に100円（年間1,200円）の支払いのいずれかに「はい」とお答えになった方にお伺いします■

支払うと回答した理由は何ですか。

最も重要と考えるものを1つお選びください。

「7.その他」の場合、テキストボックスの中に具体的な理由をお書きください。

- ☐ 1. 地中へ水が貯留されるから
- ☐ 2. 生態系が健全化されるから
- ☐ 3. 水質が維持・改善されるから
- ☐ 4. 良質な水が安定して供給されるから
- ☐ 5. 水源環境を守りたいから
- ☐ 6. 水源環境の保全・再生の必要性は感じないが、皆のために役立ちたいから
- ☐ 7. その他

次へ

Q8

必須

■先程、月に200円（年間2,400円）の支払い、月に100円（年間1,200円）の支払いの両方において「いいえ」とお答えになった方にお伺いします■

提示額に対して支払わないと回答した理由は何ですか。

当てはまるものを1つお選びください。

「4.その他」の場合、テキストボックスの中に具体的な理由をお書きください。

- ☐ 1. 今後、整備・維持管理が行われる方が良いと思うが、この額を支払う価値はないと思うから
- ☐ 2. 今後、整備・維持管理を行わない方がよいと思うから
- ☐ 3. ここで示されている事業では水源環境が保全・再生されるとは思わないから
- ☐ 4. その他

次へ

Q9

必須

【状況A（今後の整備・維持管理あり）】の状況を維持するために、仮にあなたの世帯から負担金を支払っていただく必要があるとします。

負担金は神奈川県にお住いの間、負担していただくこととなり、回答した金額分だけあなたの世帯で使うことができるお金が減ることを念頭においてください。

また、負担金は説明にある整備と維持管理にのみ使われ、他の目的にはいっさい使われないものとします。

あなたの世帯では、月に500円（年間6,000円）の支払いに応じていただけますか。

当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. はい
- ☐ 2. いいえ

次へ

Q10

必須

■前問で「1.はい」とお答えになった方にお伺いします■

月に1,000円（年間12,000円）の支払いであれば、あなたの世帯では応じていただけますか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. はい
- ☐ 2. いいえ

次へ

Q11

必須

■前問で「2.いいえ」とお答えになった方にお伺いします■

月に200円（年間2,400円）の支払いであれば、あなたの世帯では応じていただけますか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. はい
- ☐ 2. いいえ

次へ

Q12

必須

■先程、月に500円（年間6,000円）の支払い、または月に200円（年間2,400円）の支払いの
いずれかに「はい」とお答えになった方にお伺いします■

支払うと回答した理由は何ですか。
最も重要と考えるものを1つお選びください。
「7.その他」の場合、テキストボックスの中に具体的な理由をお書きください。

- ☐ 1. 地中へ水が貯留されるから
- ☐ 2. 生態系が健全化されるから
- ☐ 3. 水質が維持・改善されるから
- ☐ 4. 良質な水が安定して供給されるから
- ☐ 5. 水源環境を守りたいから
- ☐ 6. 水源環境の保全・再生の必要性は感じないが、皆のために役立ちたいから
- ☐ 7. その他

次へ

Q13
必須

■先程、月に500円（年間6,000円）の支払い、月に200円（年間2,400円）の支払いの両方において「いいえ」とお答えになった方にお伺いします■

提示額に対して支払わないと回答した理由は何ですか。
当てはまるものを1つお選びください。

「4.その他」の場合、テキストボックスの中に具体的な理由をお書きください。

- ☐ 1. 今後、整備・維持管理が行われる方が良いと思うが、この額を支払う価値はないと思うから
- ☐ 2. 今後、整備・維持管理を行わない方がよいと思うから
- ☐ 3. ここで示されている事業では水源環境が保全・再生されるとは思わないから
- ☐ 4. その他

次へ

Q14
必須

【状況A（今後の整備・維持管理あり）】の状況を維持するために、仮にあなたの世帯から負担金を支払っていただく必要があるとします。

負担金は神奈川県にお住いの間、負担していただくこととなり、回答した金額分だけあなたの世帯で使うことができるお金が減ることを念頭においてください。

また、負担金は説明にある整備と維持管理にのみ使われ、他の目的にはいっさい使われないものとします。

あなたの世帯では、月に1,000円（年間12,000円）の支払いに応じていただけますか。

当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. はい
- ☐ 2. いいえ

次へ

Q15
必須

■前問で「1.はい」とお答えになった方にお伺いします■

月に2,000円（年間24,000円）の支払いであれば、あなたの世帯では応じていただけますか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. はい
- ☐ 2. いいえ

次へ

Q16
必須

■前問で「2.いいえ」とお答えになった方にお伺いします■

月に500円（年間6,000円）の支払いであれば、あなたの世帯では応じていただけますか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. はい
- ☐ 2. いいえ

次へ

Q17
必須

■先程、月に1,000円（年間12,000円）の支払い、または月に500円（年間6,000円）の支払いのいずれかで「はい」とお答えになった方にお伺いします■

支払うと回答した理由は何ですか。
最も重要と考えるものを1つお選びください。
「7.その他」の場合、テキストボックスの中に具体的な理由をお書きください。

- ☐ 1. 地中へ水が貯留されるから
- ☐ 2. 生態系が健全化されるから
- ☐ 3. 水質が維持・改善されるから
- ☐ 4. 良質な水が安定して供給されるから
- ☐ 5. 水源環境を守りたいから
- ☐ 6. 水源環境の保全・再生の必要性は感じないが、皆のために役立ちたいから
- ☐ 7. その他

次へ

Q18
必須

■先程、月に1,000円（年間12,000円）の支払い、月に500円（年間6,000円）の支払いの両方において「いいえ」とお答えになった方にお伺いします■

提示額に対して支払わないと回答した理由は何ですか。
当てはまるものを1つお選びください。
「4.その他」の場合、テキストボックスの中に具体的な理由をお書きください。

- ☐ 1. 今後、整備・維持管理が行われる方が良いと思うが、この額を支払う価値はないと思うから
- ☐ 2. 今後、整備・維持管理を行わない方がよいと思うから
- ☐ 3. ここで示されている事業では水源環境が保全・再生されるとは思わないから
- ☐ 4. その他

次へ

Q19
必須

【状況A（今後の整備・維持管理あり）】の状況を維持するために、仮にあなたの世帯から負担金を支払っていただく必要があるとします。
負担金は神奈川県にお住いの間、負担していただくこととなり、回答した金額分だけあなたの世帯で使うことができるお金が減ることを念頭においてください。
また、負担金は説明にある整備と維持管理にのみ使われ、他の目的にはいっさい使われないものとしてします。
あなたの世帯では、月に2,000円（年間24,000円）の支払いに応じていただけますか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. はい
- ☐ 2. いいえ

次へ

Q20

必須

■前問で「1.はい」とお答えになった方にお伺いします■

月に5,000円（年間60,000円）の支払いであれば、あなたの世帯では応じていただけますか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. はい
- ☐ 2. いいえ

次へ

Q21

必須

■前問で「2.いいえ」とお答えになった方にお伺いします■

月に1,000円（年間12,000円）の支払いであれば、あなたの世帯では応じていただけますか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. はい
- ☐ 2. いいえ

次へ

Q22

必須

■先程、月に2,000円（年間24,000円）の支払い、または月に1,000円（年間12,000円）の支払いのいずれかで「はい」とお答えになった方にお伺いします■

支払うと回答した理由は何ですか。
最も重要と考えるものを1つお選びください。
「7.その他」の場合、テキストボックスの中に具体的な理由をお書きください。

- ☐ 1. 地中へ水が貯留されるから
- ☐ 2. 生態系が健全化されるから
- ☐ 3. 水質が維持・改善されるから
- ☐ 4. 良質な水が安定して供給されるから
- ☐ 5. 水源環境を守りたいから
- ☐ 6. 水源環境の保全・再生の必要性は感じないが、皆のために役立ちたいから
- ☐ 7. その他

次へ

Q23
必須

■先程、月に2,000円（年間24,000円）の支払い、月に1,000円（年間12,000円）の支払いの両方において「いいえ」とお答えになった方にお伺いします■

提示額に対して支払わないと回答した理由は何ですか。

当てはまるものを1つお選びください。

「4.その他」の場合、テキストボックスの中に具体的な理由をお書きください。

- ☐ 1. 今後、整備・維持管理が行われる方が良いと思うが、この額を支払う価値はないと思うから
- ☐ 2. 今後、整備・維持管理を行わない方がよいと思うから
- ☐ 3. ここで示されている事業では水源環境が保全・再生されるとは思わないから
- ☐ 4. その他

次へ

■質問にお答えいただき有難うございました。

以上で仮定の話は終わりです。

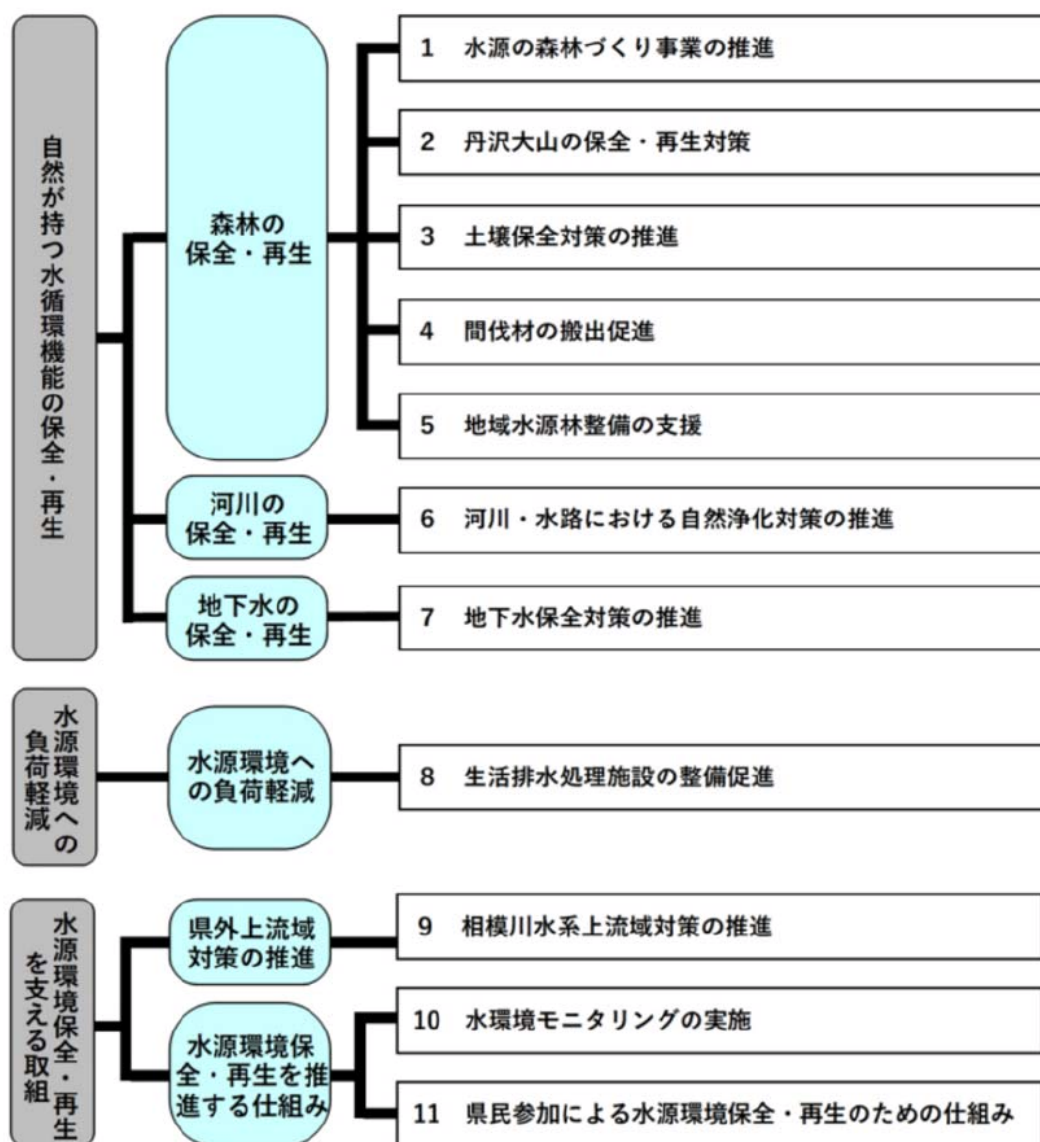
以下の画像をご覧ください。お答えください。

ここからは、水源環境保全・再生の「特別対策事業」について説明します。

前述した施策大綱の体系に基づいて、一般財源による事業とともに、「水源環境保全税」を活用した以下の11の特別対策事業に取り組んでおり、2022(R4)年度から「第4期かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」に基づき事業を実施しています。

水源環境保全税は、2007(H19)年度から個人県民税の超過課税として特別なご負担をお願いしています。

※ [\[画像を拡大\]](#) をクリックしていただくと拡大してご覧いただけます。



[\[画像を拡大\]](#)

Q24
必須

水源環境保全税によって実施されている「11の特別対策事業」により構成される取組が進められていることについてご存じでしたか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. そのような取組を行っていることを知っていた
- ☐ 2. 名称は聞いたことがあったが、取組内容までは知らなかった
- ☐ 3. まったく知らなかった

次へ

■ここから1～11の個別の事業について具体的に説明します。
以下の画像をご覧ください。

1. 「水源の森林づくり事業の推進」について
良質で安定的な水を確保するため、水源かん養※1など森林の持つ公益的機能※2の高い「豊かで活力ある森林」を目指し、荒廃が進む私有林の適切な管理（間伐などの森の手入れ）、整備を進めています。

※1 森林の土壌が降水を貯留し、河川への流出量を一定に保って洪水等を緩和するとともに、降水が土壌を通過することにより水質を浄化する働きのこと。

※2 水源かん養や土砂流出防止などの多面的機能のこと。

森林の持つ様々な機能から様々な恩恵を受けていることから公益的機能という。

※ [\[画像を拡大\]](#) をクリックしていただくと拡大してご覧いただけます。

●事業実施前

【下草の衰退】



- ・林内が暗く低木や草が衰退していました。

【土壌流出】



- ・低木や草の衰退にともない、土壌が流出していました。



間伐などの森の手入れ

●事業実施後

【下草の回復】



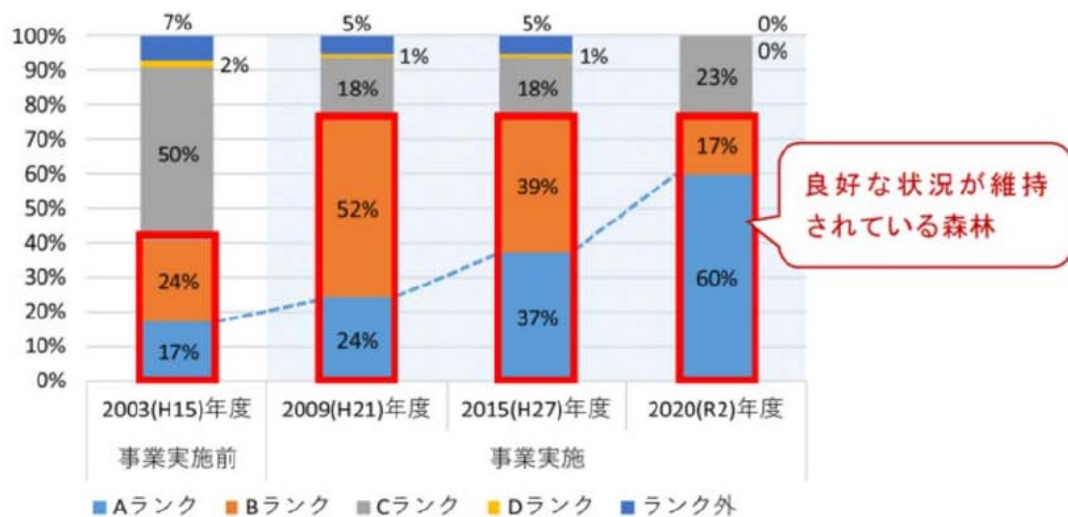
- ・間伐等の森の手入れを行い、林内を明るくすることで、下草が回復しました。

【土壌流出防止】



- ・間伐等の森の手入れを行うことに加え、土壌保全対策を行うことにより土壌の流出が抑えられました。

- ・また、下図のとおり、事業実施前（2003（H15）年度）と比較して、事業実施により手入れが行われている人工林の割合が増加しています。適期に手入れが行われることにより、Aランクの状態の割合が2020（R2）年度には60%まで増加しており、良好な状態の人工林が増えています。



手入れが行われている人工林

Aランク：適期に手入れが行われ、良好な状態となっている。
 Bランク：ここ数年は手入れが行われていないが、良好な状態が維持されている。
 Cランク：前回の手入れから長期間手入れが行われず、荒廃が進んだ状態になっている。
 Dランク：手入れが行われた形跡がなく、人工林として成林していない状態。
 ランク外：人工林が広葉樹林化している状態。



[\[画像を拡大\]](#)

Q25 必須 あなたは、『水源の森林づくり事業の推進』についてご存じでしたか。
 当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 事業の内容を知っていた
- ☐ 2. 名称は聞いたことがあったが、内容までは知らなかった
- ☐ 3. まったく知らなかった

Q26 必須 あなたは、『水源の森林づくり事業の推進』について重要だと思いますか。
 当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 重要
- ☐ 2. やや重要
- ☐ 3. どちらとも言えない
- ☐ 4. やや不要
- ☐ 5. 不要

次へ

■以下の画像をご覧ください。お答えください。

2.「丹沢大山の保全・再生対策」について

土壌流出防止対策を行うとともに、シカ捕獲、ブナ林等の保全・再生や調査研究、登山道整備、山中に埋設しているゴミの収集・撤去、環境配慮型トイレへの転換の支援などの県民連携・協働事業に取り組んでいます。

※ [\[画像を拡大\]](#) をクリックしていただくと拡大してご覧いただけます。

●事業実施前



- ・ブナ林では、シカによる摂食により下草の成長が阻害され、希少な動植物が生息・生育しにくい環境でした。

- ・下草が衰退し、地表面が削られ、土壌が流出していました。

植生保護柵の設置
土の流出を防ぐ土留めの設置
シカの管理捕獲 など

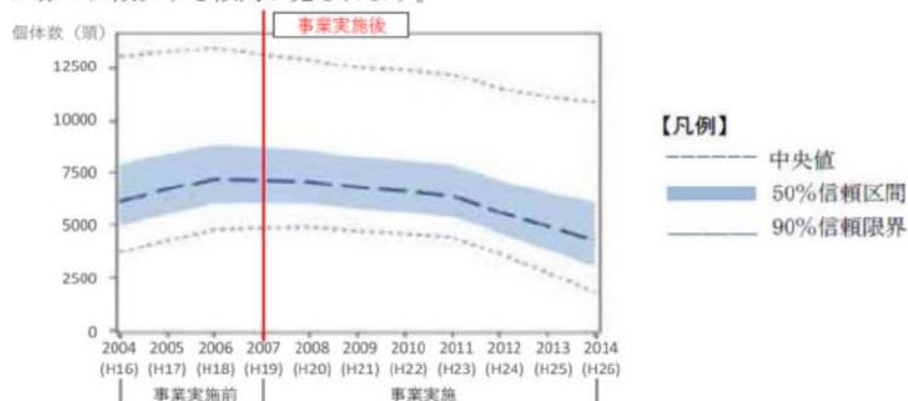
●事業実施後



- ・対策を集中的に実施したブナ林では、下草が回復しつつあります。

- ・土留め（金網）の設置により、土壌流出が止まり、一部で下草が回復しました。

- ・ また、下図のとおり、事業実施前（2006（H18）年）に比べ事業実施後はシカの個体数が徐々に減少する傾向が見られます。



保護管理区域全体でのシカの個体群動態の推定結果（2014（H26）年度末時点）

[\[画像を拡大\]](#)

Q27 あなたは、『丹沢大山の保全・再生対策』についてご存じでしたか。
必須 当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 事業の内容を知っていた
- ☐ 2. 名称は聞いたことがあったが、内容までは知らなかった
- ☐ 3. まったく知らなかった

Q28 あなたは、『丹沢大山の保全・再生対策』について重要だと思いますか。
必須 当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 重要
- ☐ 2. やや重要
- ☐ 3. どちらとも言えない
- ☐ 4. やや不要
- ☐ 5. 不要

次へ

■以下の画像をご覧になってから、お答えください。

3.「土壌保全対策の推進」について
台風被害等により発生した崩壊地等において、新たに土木的工法も導入し、水源かん養機能※¹の発揮に重要な役割を果たす森林の土壌保全対策の強化に取り組んでいます。

※¹ 森林の土壌が降水を貯留し、河川への流出量を一定に保って洪水等を緩和するとともに、降水が土壌を通過することにより水質を浄化する働きのこと。

※ [【画像を拡大】](#) をクリックしていただくと拡大してご覧いただけます。



・台風の被害などにより、
土壌が流出し、荒廃した
森林となっていました。
(山北町世附地内)

・土留工や植生保護柵を組み合わせ
て土壌保全を図りました。

[【画像を拡大】](#)

Q29 あなたは、『土壌保全対策の推進』についてご存じでしたか。
必須 当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 事業の内容を知っていた
- ☐ 2. 名称は聞いたことがあったが、内容までは知らなかった
- ☐ 3. まったく知らなかった

Q30 あなたは、『土壌保全対策の推進』について重要だと思いますか。
必須 当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 重要
- ☐ 2. やや重要
- ☐ 3. どちらとも言えない
- ☐ 4. やや不要
- ☐ 5. 不要

次へ

■以下の画像をご覧になってから、お答えください。

4.「間伐材の搬出促進」事業について

森林資源の有効利用による森林整備を推進するため、間伐材の集材・搬出に対し支援しています。

※ [【画像を拡大】](#) をクリックしていただくと拡大してご覧いただけます。

●事業実施前

【非効率な従来機械による集材】



【伐採木が放置されたままの林内】



- ・公共工事等による請負の森林整備だけでは、持続的・自立的な森林管理が行われません。
- ・集材・搬出技術者が高齢化し、新しい担い手が育ちません。
- ・森林整備によって生じた間伐材が放置され、県産木材の資源循環が進みません。

間伐した木の運び出しの支援

●事業実施後

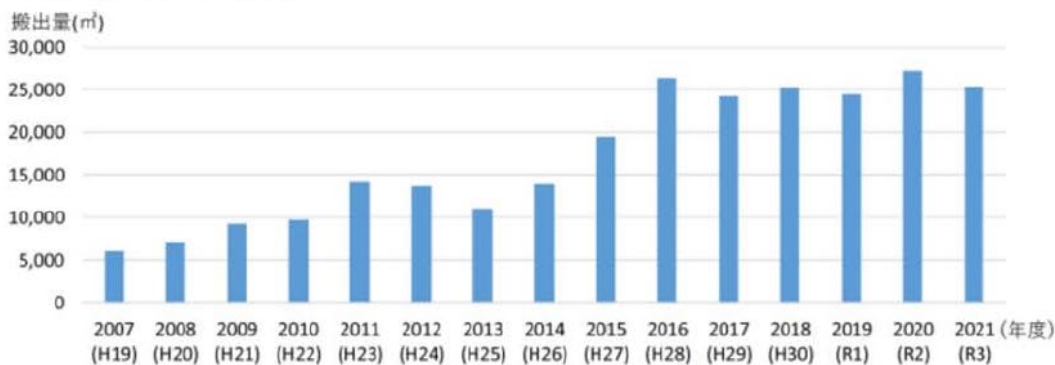
【効率的な搬出技術の定着】



【間伐材が有効利用され、片付いた林内】



- ・補助事業の活用により、持続的・自立的な森林管理が促進されます。
 - ・安全で効率的な集材・搬出技術が導入され、労働者の通年雇用、定着が進みます。
 - ・森林整備によって生じた間伐材が有効活用され、木材利用による二酸化炭素固定と資源循環が促進されます。
- ・また、下図のとおり事業を開始した2007（H19）年度から、間伐材の搬出量は増加傾向にあり、2016（H28）年以降は、25,000m³/年の搬出量を概ね維持しており、持続的な森林管理が進められています。



[【画像を拡大】](#)

Q31 あなたは、『間伐材の搬出促進』についてご存じでしたか。
必須 当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 事業の内容を知っていた
- ☐ 2. 名称は聞いたことがあったが、内容までは知らなかった
- ☐ 3. まったく知らなかった

Q32 あなたは、『間伐材の搬出促進』について重要だと思いますか。
必須 当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 重要
- ☐ 2. やや重要
- ☐ 3. どちらとも言えない
- ☐ 4. やや不要
- ☐ 5. 不要

次へ

■以下の画像をご覧ください。お答えください。

5.「地域水源林整備の支援」について

地域における水源保全を図るため、市町村が主体的に取り組む水源林の確保・整備を推進する支援のほか、高齢級の森林の間伐を促進しています。

※ [【画像を拡大】](#) をクリックしていただくと拡大してご覧いただけます。

●事業実施前



- ・植栽木が密集し、林内が暗く下草や低木がほとんどない状況でした。
- ・シカによる食害の影響も一つの要因と考えられます。



- ・植栽木が密集し成長の悪い木が枯れて倒木となり、放置されていました。
- ・林内が全体的に暗く、低木や下草がまばらな状況でした。

森の手入れを進める市町村を支援

●事業実施後

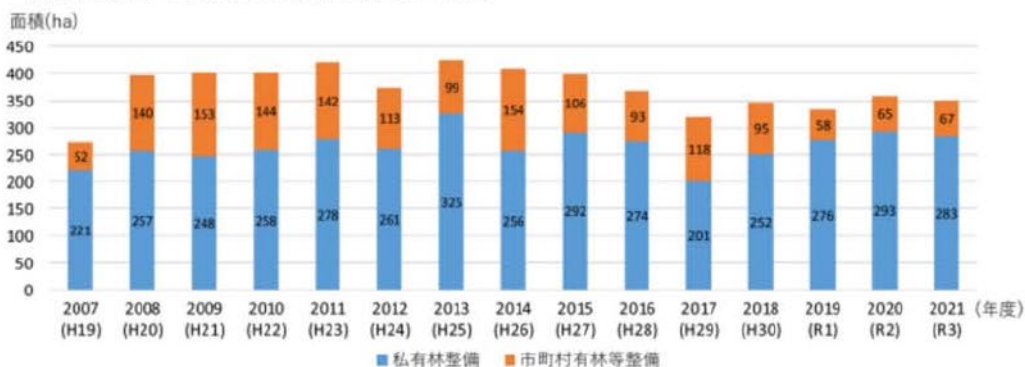


- ・スギ・ヒノキと広葉樹が混生する森林を目指して整備を行った結果、全体的に林内が明るくなり、シカがあまり好まない植物を主に低木や下草が良好に生育しています。



- ・低木や下草が良好に生育することにより、土壌の流出防止も図られています。
- ・これらの結果、森林の持つ水源かん養等の公益的機能は向上しています。

- ・ また、下図のとおり、地域水源林の整備は、事業実施後から継続して実施されており、水源かん養等の機能向上が図られています。



事業開始以降の地域水源林の整備面積の推移

[【画像を拡大】](#)

Q33
必須

あなたは、『地域水源林整備の支援』についてご存じでしたか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 事業の内容を知っていた
- ☐ 2. 名称は聞いたことがあったが、内容までは知らなかった
- ☐ 3. まったく知らなかった

Q34
必須

あなたは、『地域水源林整備の支援』について重要だと思いますか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 重要
- ☐ 2. やや重要
- ☐ 3. どちらとも言えない
- ☐ 4. やや不要
- ☐ 5. 不要

次へ

■以下の画像をご覧になってから、お答えください。

6.「河川・水路における自然浄化対策の推進」について
市町村管理の河川・水路等における生態系の保全を促進し、良好な水源環境を形成するために、市町村が実施する生態系に配慮した河川整備等を支援しています。
※【画像を拡大】をクリックしていただくと拡大してご覧いただけます。

●事業実施前

【厚木市：善明川[ぜんみょうがわ]】



水辺環境の
整備に取り
組む市町村
を支援
(市町村が
河川の多
自然川づくり
を実施)

- ・河川が直線的で瀬や淵もなく、生物が生息しにくい環境でした。
- ・これより自然の水質浄化機能が失われ、水質の維持・改善が期待できない状況でした。

●事業実施後

【厚木市：善明川[ぜんみょうがわ]】

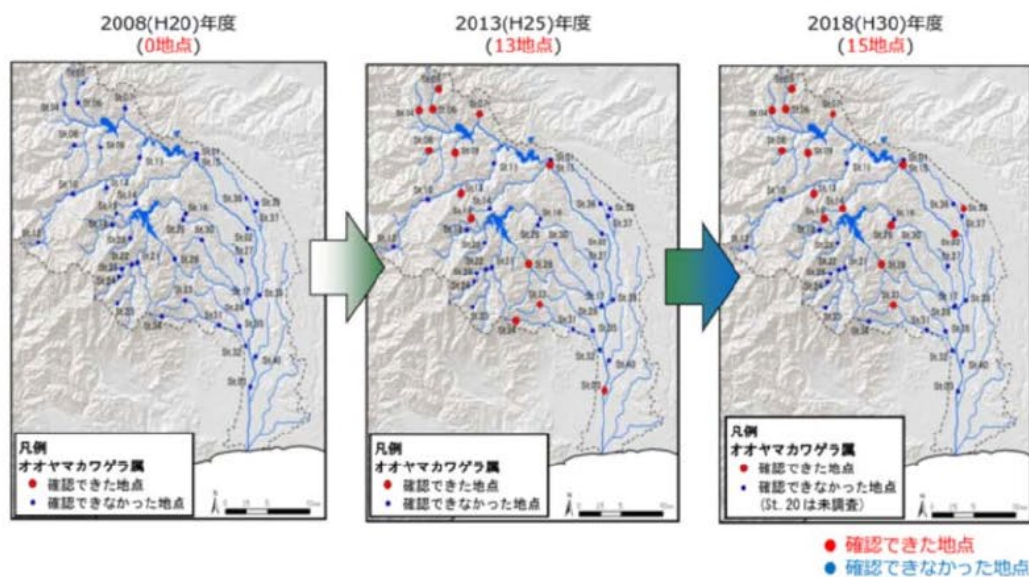


- ・瀬や淵ができたことにより、自然浄化機能が向上しました。
- ・また、生物の餌場や隠れ場が確保され、生物の生育にも適した場所となりました。

- ・また、下図のとおり、きれいな水質を好む水生昆虫である「オオヤマカワゲラ」の生息確認箇所が年々増え、下流に広がってきています。



【生物指標】オオヤマカワゲラ ※キレイな水に生息



[画像を拡大]

Q35

必須

あなたは、『河川・水路における自然浄化対策の推進』についてご存じでしたか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 事業の内容を知っていた
- ☐ 2. 名称は聞いたことがあったが、内容までは知らなかった
- ☐ 3. まったく知らなかった

Q36

必須

あなたは、『河川・水路における自然浄化対策の推進』について重要だと思いますか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 重要
- ☐ 2. やや重要
- ☐ 3. どちらとも言えない
- ☐ 4. やや不要
- ☐ 5. 不要

次へ

■以下の画像をご覧になってから、お答えください。

7.「地下水保全対策の推進」について

地下水を主要な水道水源として利用している地域内の市町村が、計画的に実施する地下水かん養対策や汚染対策に対し、支援を実施しています。

※【画像を拡大】をクリックしていただくと拡大してご覧いただけます。

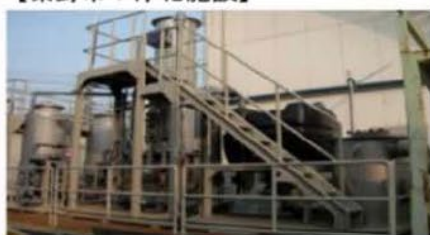
●事業実施前

- ・地下水を主要な水道水源としている地域のうち、有害物質の環境基準を超過している地域がありました（秦野盆地など）。
- ・地下水の水位（水量）については、問題はないとされ、監視等は行われていませんでした。

かん養や水質保全に取り組む市町村を支援
（市町村が水質浄化対策等を実施）

●事業実施後

【秦野市：浄化施設】

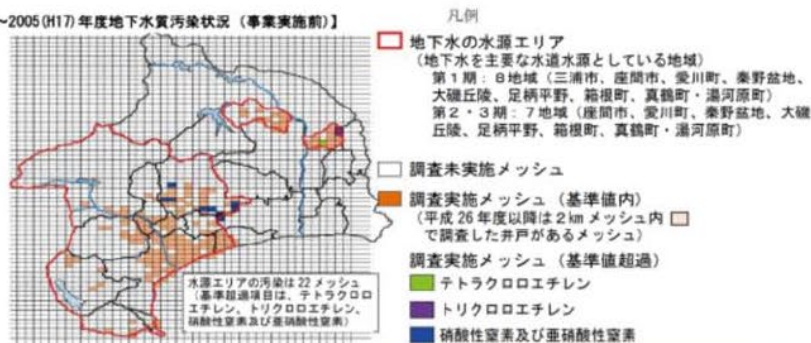


【秦野市：水田かん養】

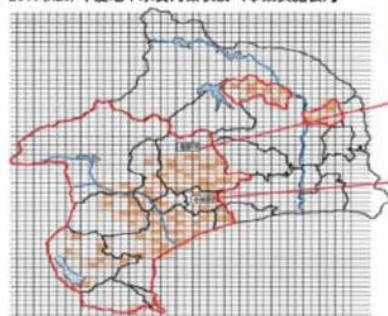


- ・秦野市では、水質浄化装置（3基）を新たに設置して有機塩素系化学物質の浄化を行うことにより、有害物質の濃度が減少したことを確認しました。
- ・また、水田かん養や雨水浸透ますの設置により、地下水量の確保に努めています。
- ・さらに、11市町において、モニタリングを実施することにより、地下水の水位や水質を監視しています。
- ・また、下図のとおり、事業実施前では地下水の水質は基準値を超えている箇所が22メッシュでしたが、事業実施後では、どの箇所も基準値内の水質状況となっています。

【2002（H14）年度～2005（H17）年度地下水汚染状況（事業実施前）】



【2014（H26）年度～2017（H29）年度地下水汚染状況（事業実施後）】



【事業実施前】 22メッシュ → 【事業実施後】 0メッシュ

水源環境保全税による汚染対策
○秦野市
浄化施設の位置によりテトラクロロエチレンの浄化対策を実施
（メッシュ調査ではテトラクロロエチレンは基準値内）
○中井町
植物による硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の浄化対策を実施
（メッシュ調査では硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素は基準値内）

※ 地下水汚染状況は、公共用水域及び地下水の水質測定結果のメッシュ調査結果を引用

地下水汚染状況の変化

[\[画像を拡大\]](#)

Q37

必須

あなたは、『地下水保全対策の推進』についてご存じでしたか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 事業の内容を知っていた
- ☐ 2. 名称は聞いたことがあったが、内容までは知らなかった
- ☐ 3. まったく知らなかった

Q38

必須

あなたは、『地下水保全対策の推進』について重要だと思いますか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 重要
- ☐ 2. やや重要
- ☐ 3. どちらとも言えない
- ☐ 4. やや不要
- ☐ 5. 不要

次へ

■以下の画像をご覧になってから、お答えください。

8.「生活排水処理施設の整備促進」について

富栄養化の状態にあるダム湖への生活排水（窒素・リン）の流入や相模川水系・酒匂川水系への未処理の生活排水の流入を抑制し、県内水源保全地域の生活排水対策を総合的に推進しています。

※ [【画像を拡大】](#) をクリックしていただくと拡大してご覧いただけます。

【下水がきれいになる様子】



下水処理に入ってくるよごれた水

公衆トイレの浄化槽を
高度処理型に転換



下水処理場で処理されたきれいな水



・また、左図のとおり、事業実施により、生活排水処理率は向上しており、県内水源保全地域の2021（R3）年度末では、95.5%となっています。

生活排水処理率の推移

[【画像を拡大】](#)

Q39 必須 あなたは、『生活排水処理施設の整備促進』についてご存じでしたか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 事業の内容を知っていた
- ☐ 2. 名称は聞いたことがあったが、内容までは知らなかった
- ☐ 3. まったく知らなかった

Q40

必須

あなたは、『生活排水処理施設の整備促進』について重要だと思いますか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 重要
- ☐ 2. やや重要
- ☐ 3. どちらとも言えない
- ☐ 4. やや不要
- ☐ 5. 不要

次へ

■以下の画像をご覧になってから、お答えください。

9.「相模川水系上流域対策の推進」について

荒廃した森林を対象に、間伐や間伐に必要な作業道の整備等を、神奈川県と山梨県が共同事業として実施しています。

また生活排水対策として、桂川清流センター（下水処理施設：山梨県）において、リン削減効果のある凝集剤による排水処理を連携して取り組んでいます。

※ [【画像を拡大】](#) をクリックしていただくと拡大してご覧いただけます。

●事業実施前

【県外上流域の下草の衰退】



- ・県外上流域（相模川水系）の森林では、樹木が密集しているため林内が暗く、木々の下に草が生えない状況でした。
- ・そのため、雨が降ると表土が流されてしまい、水源かん養機能の低下が懸念されていました。

【アオコの発生状況】



- ・水がめであるダム湖では、窒素・リン濃度が高い水の流入により、たびたび「アオコ」※1が発生していました。
- ・これに伴う水道水の異臭・異味等の発生により、良質な水の供給への支障が懸念されていました。

※1 水中の植物プランクトンの大量発生により水面に青緑色の粉をまいたような状態になること

山梨県と共同して、山梨県内の桂川流域で森の手入れや
川をきれいにする対策を実施

●事業実施後

【下草の回復】



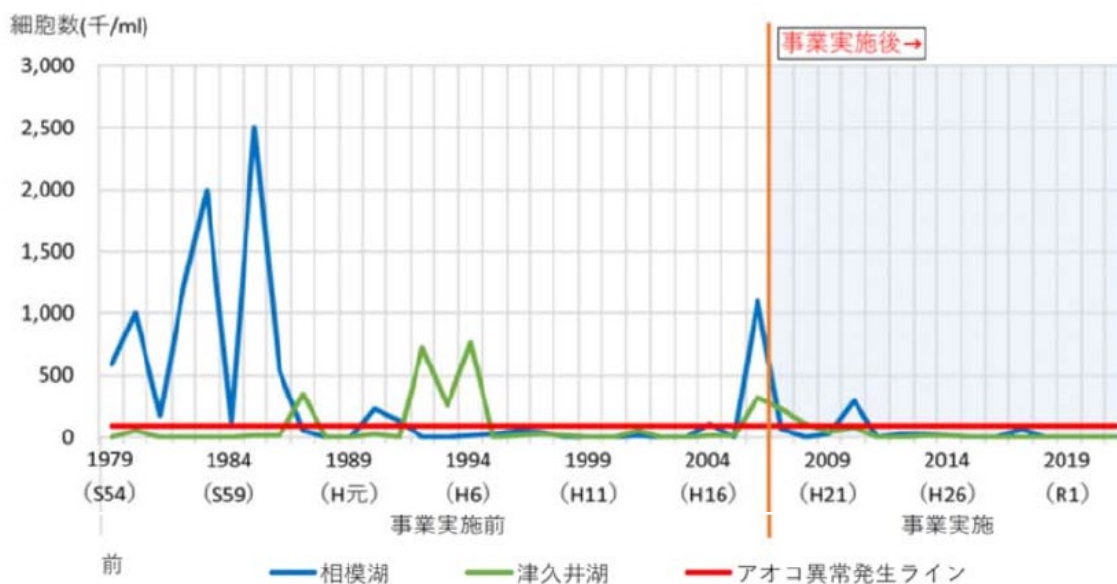
- ・県外上流域（相模川水系）での間伐により、林内に光が入り、下草が回復しました。
- ・これにより県外水源保全地域における水源かん養機能の向上が図られました。

【生活排水対策：山梨県内の下水処理場に設置したリン処理施設の一部】



- ・ダム湖の水質についてはまだ際立った効果は見られませんが、山梨県内の生活排水からのリンの流入抑制により、「アオコ」の発生頻度の減少が期待されます。

- また、下図のとおり、事業実施前ではアオコ以上発生ラインを超える状態が多数ありましたが、事業実施後（2007（H19）年以降）は、アオコ異常発生ラインを超えることはほぼなくなっています。



アオコの発生状況（相模湖・津久井湖）

[画像を拡大]

Q41 あなたは、『相模川水系上流域対策の推進』についてご存じでしたか。
必須 当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 事業の内容を知っていた
- ☐ 2. 名称は聞いたことがあったが、内容までは知らなかった
- ☐ 3. まったく知らなかった

Q42 あなたは、『相模川水系上流域対策の推進』について重要だと思いますか。
必須 当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 重要
- ☐ 2. やや重要
- ☐ 3. どちらとも言えない
- ☐ 4. やや不要
- ☐ 5. 不要

次へ

■以下の画像をご覧になってから、お答えください。

10.「水環境モニタリングの実施」について

事業の効果と影響を把握しながら評価と見直しを行うことで、柔軟な施策の推進を図るとともに、施策の効果を県民に分かりやすく示すため、事業実施と並行して、水環境全般にわたるモニタリング調査を実施しています。

※ [\[画像を拡大\]](#) をクリックしていただくと拡大してご覧いただけます。

■水環境モニタリングの実施目的

事業の効果と影響を把握しながら評価と見直しを行うことで、柔軟な施策の推進を図るとともに、施策の効果を県民に分かりやすく示すため。

■水環境モニタリングの実施内容

① 森林のモニタリング調査



② 河川のモニタリング調査

・動植物等調査



・県民参加型調査（水生生物や水質等の調査を実施）



③ 森林・生活排水施設の現状把握（酒匂川水系上流域）

[\[画像を拡大\]](#)

Q43 あなたは、『水環境モニタリングの実施』についてご存じでしたか。
必須 当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 事業の内容を知っていた
- ☐ 2. 名称は聞いたことがあったが、内容までは知らなかった
- ☐ 3. まったく知らなかった

Q44
必須

あなたは、『水環境モニタリングの実施』について重要だと思いますか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 重要
- ☐ 2. やや重要
- ☐ 3. どちらとも言えない
- ☐ 4. やや不要
- ☐ 5. 不要

次へ

■以下の画像をご覧になってから、お答えください。

11.「県民参加による水源環境保全・再生のための仕組み」について
水源環境保全・再生施策に県民意見を反映させるため「水源環境保全・再生かながわ県民会議」の運営等を行っています。

また、市民団体やNPO等が実施する水源環境保全・再生活動に対し、財政的支援を行っています。

※ [\[画像を拡大\]](#) をクリックしていただくと拡大してご覧いただけます。

■県民参加による仕組みづくりの実施目的

事業の計画、実施、評価、見直しの各段階に県民意見を反映させ、県民が主体的に事業に参加し、県民の意志を基盤とした施策の展開を図るため。

■県民参加による仕組みづくりの実施内容



[\[画像を拡大\]](#)

Q45 必須 あなたは、『県民参加による水源環境保全・再生のための仕組み』についてご存じでしたか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 事業の内容を知っていた
- ☐ 2. 名称は聞いたことがあったが、内容までは知らなかった
- ☐ 3. まったく知らなかった

Q46
必須

あなたは、『県民参加による水源環境保全・再生のための仕組み』について重要だと思いますか。
当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 1. 重要
- ☐ 2. やや重要
- ☐ 3. どちらとも言えない
- ☐ 4. やや不要
- ☐ 5. 不要

次へ

■ここからは「**かながわ水源環境保全・再生の取組**」についてお伺いします。

Q47
必須

2007（H19）年度から個人県民税の超過課税「水源環境保全税」を県民の皆様にご負担いただき、これを財源に水源環境の保全・再生のための取組を行っています。
このことをご存知でしたか。
当てはまるものを1つお選びください。

県民税のURL

<https://www.pref.kanagawa.jp/zei/kenzei/a001/b001/002.html>

※上記のURLを必ずクリックしてからお答えください。

- ☐ 1. 知っていた
- ☐ 2. 知らなかった

次へ

■以下、お答えいただいているあなたご自身のことについてお伺いします。

Q48

必須

あなたのご職業は何ですか。

当てはまるものを1つお選びください。

「その他」の場合、テキストボックスの中に具体的にお書きください。

- ☐ 1. 自営
- ☐ 2. 給与所得者（会社員、公務員等）
- ☐ 3. 会社・団体役員
- ☐ 4. パート・アルバイト・フリーター
- ☐ 5. 学生
- ☐ 6. 年金生活者
- ☐ 7. 主夫・主婦
- ☐ 8. 無職
- ☐ 9. その他

次へ

Q49

必須

あなたと同居しているご家族はあなたも含めて何人ですか。

当てはまるものを1つお選びください。

「その他」の場合、テキストボックスの中に具体的な人数をお書きください。

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人
- ☐ 4人
- ☐ 5人
- ☐ 6人
- ☐ その他：人

次へ

Q50
必須

あなたの世帯の中で住民税を払う対象になっている人はあなたも含めて何人ですか。
当てはまるものを1つお選びください。
「その他」の場合、テキストボックスの中に具体的な人数をお書きください。

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人
- ☐ 4人
- ☐ その他： 人

次へ

Q51
必須

お差し支えなければ、あなたの世帯全体の年収をお聞かせください。
(年金、税金を含みます) 当てはまるものを1つお選びください。

- ☐ 200万円未満
- ☐ 200万円～400万円未満
- ☐ 400万円～600万円未満
- ☐ 600万円～800万円未満
- ☐ 800万円～1,000万円未満
- ☐ 1,000万円～1,200万円未満
- ☐ 1,200万円～1,500万円未満
- ☐ 1,500万円以上

次へ

Q52

その他、アンケートの内容、「かながわ水源環境保全・再生の取組」等について、ご意見がございましたらご自由にお書きください。

次へ

アンケートにご回答いただき、ありがとうございました。

【あなたご自身に関するアンケート】の獲得ポイント

〇〇ポイント

(9) 本調査アンケートの回収数について

本調査の回収数を表 15に示す。

表 15 回収目標数と回収数

地区		市町村	モニター数	モニター回収想定数		世帯数	世帯数 構成比	目標 回収数	回収数	回収数 構成比	
				全体	20代以上	R4. 10. 1現在					
1	横浜川崎 地区	1 横浜市	81,242	8,826	8,826	1,781,879	41.4%	228	228	28.5%	
		2 川崎市	34,945	3,661	3,661	762,765	17.7%	142	142	17.8%	
2	横須賀 三浦 地区	3 横須賀市	6,863	757	757	165,968	3.9%	31	31	3.9%	
		4 鎌倉市	3,573	401	401	76,939	1.8%	14	14	1.8%	
		5 逗子市	1,155	126	126	25,128	0.6%	8	8	1.0%	
		6 三浦市	549	57	57	17,214	0.4%	8	8	1.0%	
		7 葉山町	514	54	54	13,123	0.3%	8	8	1.0%	
		8 相模原市	13,911	1,497	1,497	341,725	7.9%	63	63	7.9%	
3	県央 地区	9 厚木市	4,097	439	439	103,411	2.4%	19	21	2.6%	
		10 大和市	5,286	561	561	114,194	2.7%	21	20	2.5%	
		11 海老名市	2,610	277	277	60,879	1.4%	11	12	1.5%	
		12 座間市	2,572	278	278	61,382	1.4%	11	11	1.4%	
		13 綾瀬市	1,425	150	150	35,305	0.8%	8	8	1.0%	
		14 愛川町	515	54	54	17,431	0.4%	8	9	1.1%	
		15 清川村	36	0	0	1,134	0.0%	8	5	0.6%	
		16 平塚市	4,593	493	493	114,746	2.7%	21	21	2.6%	
4	湘南 地区	17 藤沢市	9,222	1,000	1,000	200,139	4.6%	37	37	4.6%	
		18 茅ヶ崎市	4,789	524	524	105,611	2.5%	20	20	2.5%	
		19 秦野市	2,746	297	297	72,002	1.7%	13	13	1.6%	
		20 伊勢原市	1,780	187	187	46,366	1.1%	9	9	1.1%	
		21 寒川町	795	81	81	20,439	0.5%	8	8	1.0%	
		22 大磯町	530	57	57	12,880	0.3%	8	8	1.0%	
		23 二宮町	480	49	49	11,654	0.3%	8	8	1.0%	
5	県西 地区	24 小田原市	3,088	330	330	83,701	1.9%	16	16	2.0%	
		25 南足柄市	605	63	63	16,550	0.4%	8	8	1.0%	
		26 中井町	111	6	6	3,458	0.1%	8	8	1.0%	
		27 大井町	249	21	21	6,961	0.2%	8	8	1.0%	
		28 松田町	135	8	8	4,516	0.1%	8	8	1.0%	
		29 山北町	105	6	6	3,916	0.1%	8	8	1.0%	
		30 開成町	294	25	25	7,234	0.2%	8	8	1.0%	
		31 箱根町	196	14	14	6,339	0.1%	8	8	1.0%	
		32 真鶴町	119	8	8	2,946	0.1%	8	8	1.0%	
		33 湯河原町	407	41	41	10,780	0.3%	8	8	1.0%	
			合計	189,537	20,348	20,348	4,308,715	100.0%	800	800	100.0%

※黄色塗りつぶしは、世帯数が多い上位5市を示す。

1) アンケート回収数の割合

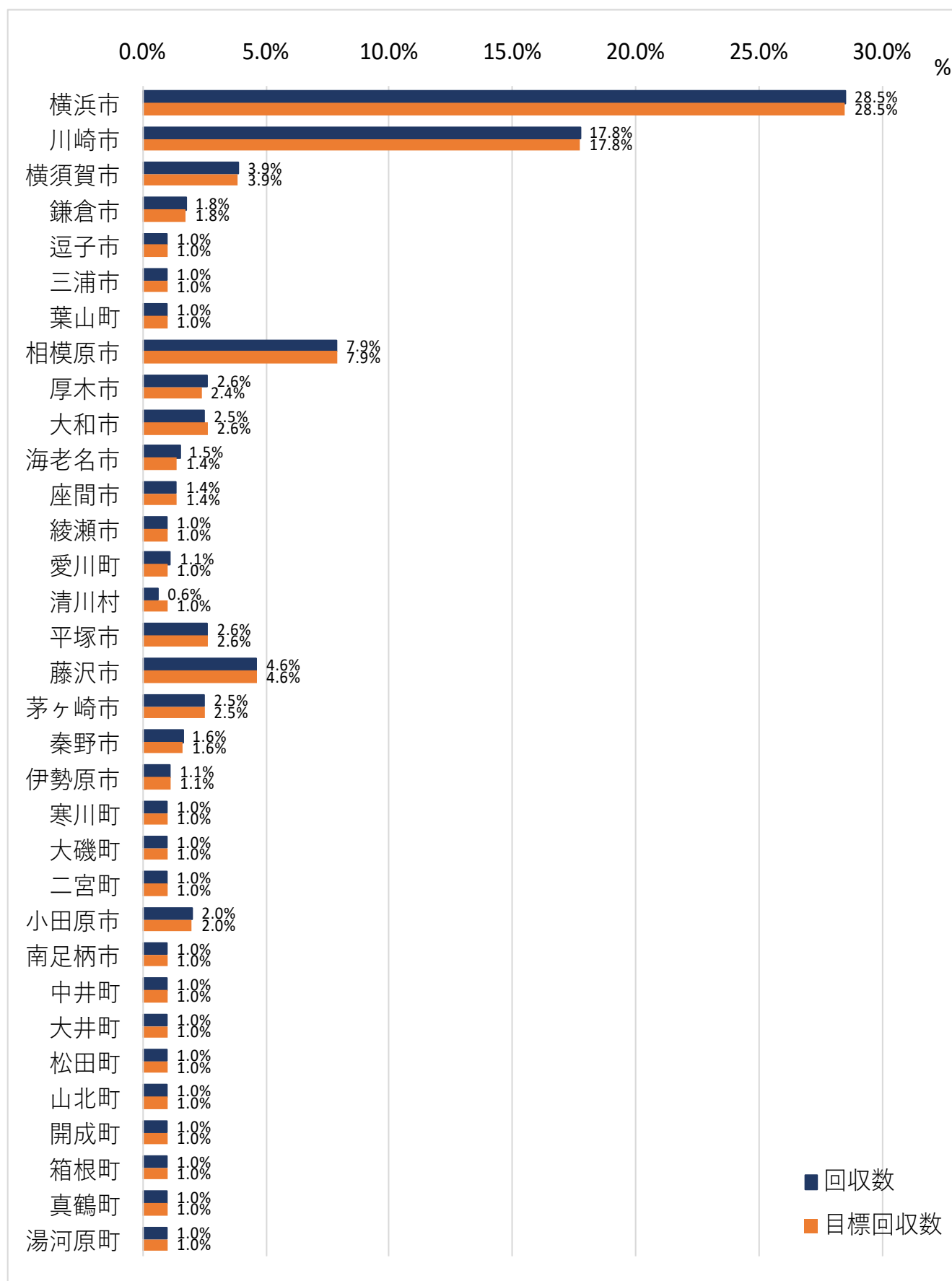


図 回収数の割合（市町村別）

表 16 自治体別地区別・提示額ケース別回収数

	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4	合計	割合
横浜市	57	57	57	57	228	28.5%
川崎市	35	36	35	36	142	17.8%
横須賀市	8	7	8	8	31	3.9%
鎌倉市	4	3	4	3	14	1.8%
逗子市	2	2	2	2	8	1.0%
三浦市	2	2	2	2	8	1.0%
葉山町	2	2	2	2	8	1.0%
相模原市	16	16	15	16	63	7.9%
厚木市	4	5	6	6	21	2.6%
大和市	5	5	5	5	20	2.5%
海老名市	3	3	3	3	12	1.5%
座間市	3	3	3	2	11	1.4%
綾瀬市	2	2	2	2	8	1.0%
愛川町	2	2	3	2	9	1.1%
清川村	2	2	0	1	5	0.6%
平塚市	5	5	5	6	21	2.6%
藤沢市	10	9	9	9	37	4.6%
茅ヶ崎市	5	5	5	5	20	2.5%
秦野市	3	4	3	3	13	1.6%
伊勢原市	2	2	3	2	9	1.1%
寒川町	2	2	2	2	8	1.0%
大磯町	2	2	2	2	8	1.0%
二宮町	2	2	2	2	8	1.0%
小田原市	4	4	4	4	16	2.0%
南足柄市	2	2	2	2	8	1.0%
中井町	2	2	2	2	8	1.0%
大井町	2	2	2	2	8	1.0%
松田町	2	2	2	2	8	1.0%
山北町	2	2	2	2	8	1.0%
開成町	2	2	2	2	8	1.0%
箱根町	2	2	2	2	8	1.0%
真鶴町	2	2	2	2	8	1.0%
湯河原町	2	2	2	2	8	1.0%
合計	200	200	200	200	800	100%

	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4	合計
横浜川崎地区	92	93	92	93	370
横須賀三浦地区	18	16	18	17	69
県央地区	37	38	37	37	149
湘南地区	31	31	31	31	124
県西地区	22	22	22	22	88
合計	200	200	200	200	800

表 17 回収数の割合（年齢階層別）

		20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
回収数(票)		68	104	160	179	289	800
	%	8.5	13.0	20.0	22.4	36.1	100
[参考]神奈川県人口(人)		978,913	1,030,414	1,359,787	1,362,218	2,816,317	7,547,649
	%	13.0	13.7	18.0	18.0	37.3	100.0

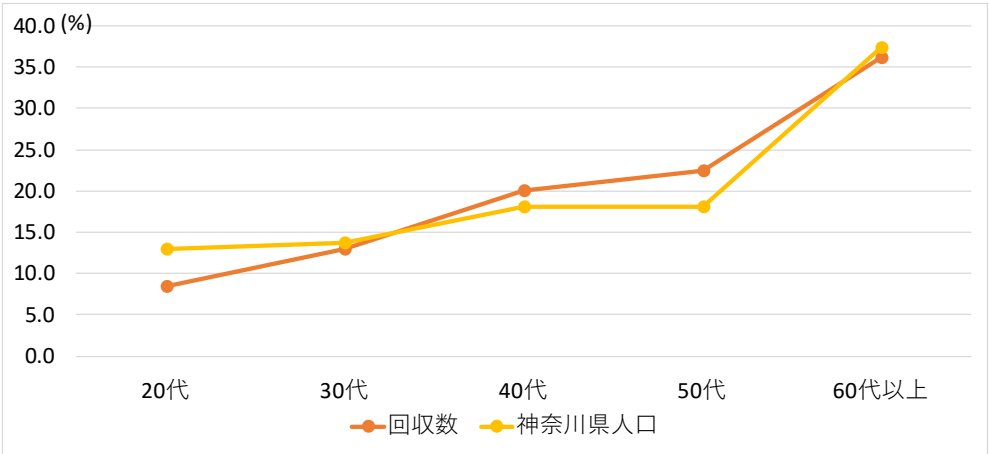


図 回収数の割合（年齢階層別）

アンケート分析結果

結果概要は表 18に示すとおりである。

WTPは前回結果（887円/月・世帯＜ワイブル分布・平均値＞）と比べ、概ね同様であり、今回結果（964円/月・世帯＜ワイブル分布・平均値＞）の方が少し高い金額（約70円/月・世帯 増加）であった。

事業理解度の設問ありの回収率は54.6％であり、予備調査（回収率62.7％）と比べて低かった。これは、事業理解度の設問あり（問2）の正解率が低くなった（本調査 65.3％、予備調査 72％）ことが要因として考えられる。

事業理解度の設問あり（上記結果）のWTPは、設問なし（913円/月・世帯＜ワイブル分布・平均値＞）と比較して高くなっており、予備調査と同様傾向であった。これは、事業の内容を正しく理解した上での回答であるため、事業の効果に対する金額が多く支払われていると考えられる。

また、予備調査時の事業理解の設問ありのWTPと比べ、本調査の方が少し低い金額（約320円/月・世帯 減少）であり、前回結果（約340円/月・世帯 減少）と同様の傾向であった。

表 18 結果概要（本調査）

項目		前回結果 (平成26年度)	今回結果（令和4年度）	
			事業理解度の設問あり	事業理解度の設問なし
回収数		800票	800票	800票
有効回答数		690票	437票	682票
有効回答率		86.3%	54.6%	85.3%
推定 WTP	対数線形ロジットモデル	中央値	中央値	中央値
		453円/月・世帯	521円/月・世帯	432円/月・世帯
	平均値	平均値	平均値	
	982円/月・世帯	1,029円/月・世帯	978円/月・世帯	
ワイブル生存分析	中央値	中央値	中央値	
	480円/月・世帯	558円/月・世帯	459円/月・世帯	
	平均値	平均値	平均値	
	887円/月・世帯	964円/月・世帯	913円/月・世帯	
無効回答判断		・問5で「6」、問6で「3」と回答した人を除く	・問7で「6」、問8で「3」と回答した人を除く ・問2で「3」、問3で「2」と回答した以外の人を除く	・問7で「6」、問8で「3」と回答した人を除く

(10) WTP 推定

本調査で提示する負担額を精査するために、予備調査の WTP を推定した。

WTP の推定は、「Excel でできるCVM (Version4.0)」を活用した。

1) 有効回答の抽出

アンケートの内容を理解せず、支払意思額を回答したサンプルを除外するため、問7と問8の回答と問2と問3の回答を用いてWTP推定に不適切なサンプルを除外した。

有効サンプルは、表 19に示すとおりである。

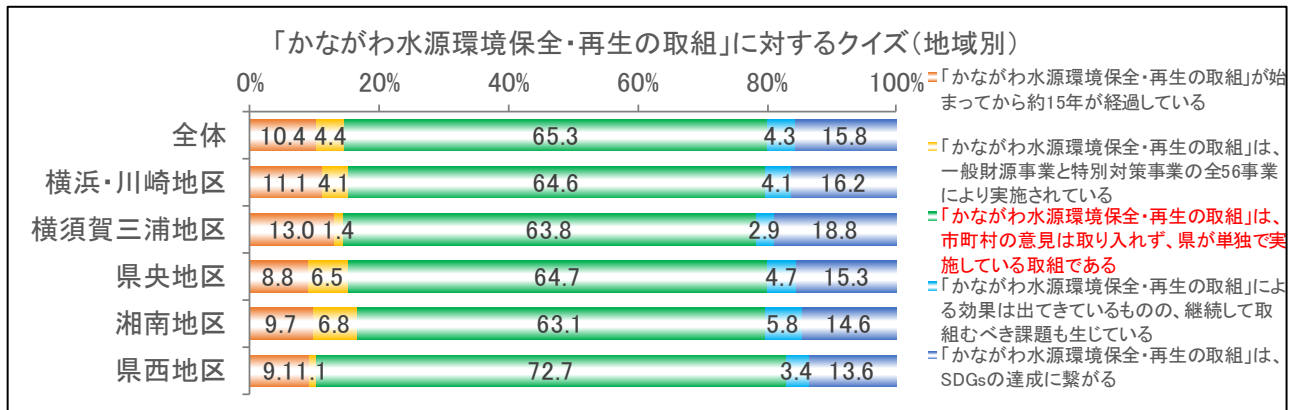
事業理解度の設問ありでは、問2で「『かながわ水源環境保全・再生の取組』は、市町村の意見は取り入れず、県が独自で実施している取組である。」と回答した割合は65.3%（全体）であり、予備調査（72% 全体）と比べ、正答率が下がっていた。

問7で「水源環境の保全・再生の必要性は感じないが、皆のために役立ちたいから」と回答（温情回答）した割合は2.4%、問8で「ここで示されている事業では水源環境保全・再生されると思わないから」と回答（抵抗回答）した割合は28.6%であり、それぞれ予備調査と比べ、低かった。

表 19 有効サンプル

項目	前回結果 (平成26年度)	今回結果（令和4年度）	
		事業理解度の設問あり	事業理解度の設問なし
回収数	800票	800票	800票
有効回答数	690票	437票	682票
有効回答率	86.3%	54.6%	85.3%
無効回答判断	・問5で「6」、問6で「3」と回答した人を除く	・問7で「6」、問8で「3」と回答した人を除く ・問2で「3」、問3で「2」と回答した以外の人を除く	・問7で「6」、問8で「3」と回答した人を除く

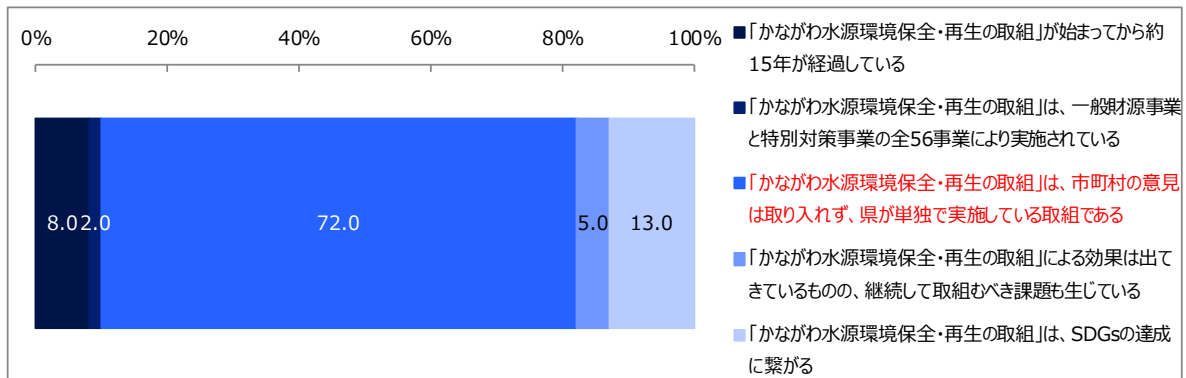
【問2】事業理解度に関する設問



	「かながわ水源環境保全・再生の取組」が始まってから約15年が経過している	「かながわ水源環境保全・再生の取組」は、一般財源事業と特別対策事業の全56事業により実施されている	「かながわ水源環境保全・再生の取組」は、市町村の意見は取り入れず、県が単独で実施している取組である	「かながわ水源環境保全・再生の取組」による効果は出てきているものの、継続して取組むべき課題も生じている	「かながわ水源環境保全・再生の取組」は、SDGsの達成に繋がる	合計
全体	10.4	4.4	65.3	4.3	15.8	100.0
横浜・川崎地区	11.1	4.1	64.6	4.1	16.2	100.0
横須賀三浦地区	13.0	1.4	63.8	2.9	18.8	100.0
県央地区	8.8	6.5	64.7	4.7	15.3	100.0
湘南地区	9.7	6.8	63.1	5.8	14.6	100.0
県西地区	9.1	1.1	72.7	3.4	13.6	100.0

※赤字を回答した場合、有効サンプルと判断

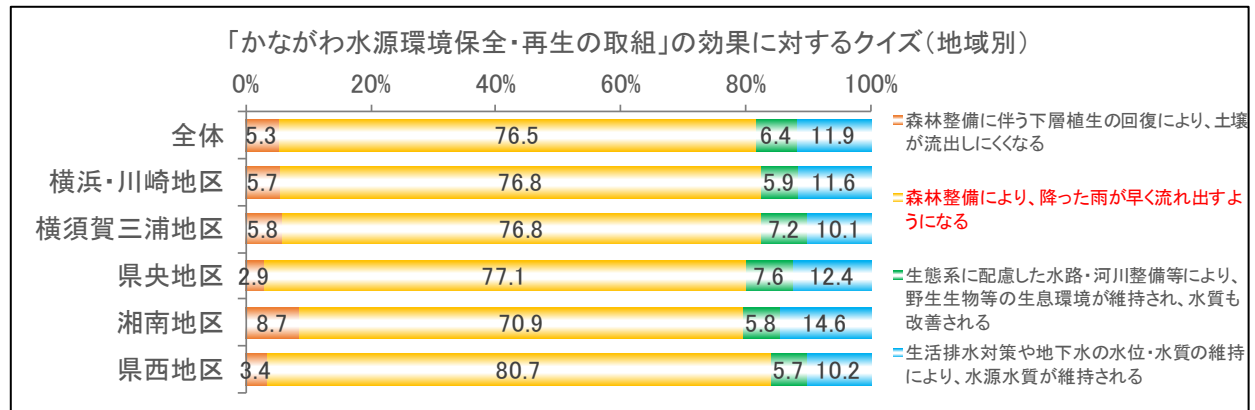
予備調査



	n	%
全体	300	100.0
「かながわ水源環境保全・再生の取組」が始まってから約15年が経過している	24	8.0
「かながわ水源環境保全・再生の取組」は、一般財源事業と特別対策事業の全56事業により実施されている	6	2.0
「かながわ水源環境保全・再生の取組」は、市町村の意見は取り入れず、県が単独で実施している取組である	216	72.0
「かながわ水源環境保全・再生の取組」による効果は出てきているものの、継続して取組むべき課題も生じている	15	5.0
「かながわ水源環境保全・再生の取組」は、SDGsの達成に繋がる	39	13.0

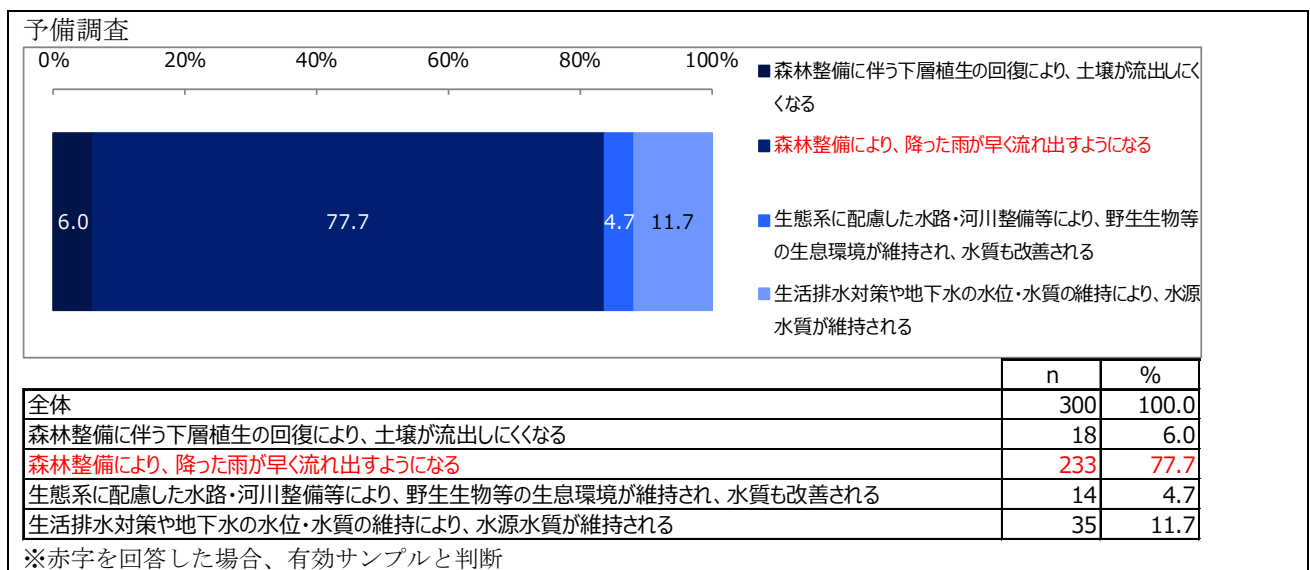
※赤字を回答した場合、有効サンプルと判断

【問 3】 事業理解度に関する設問

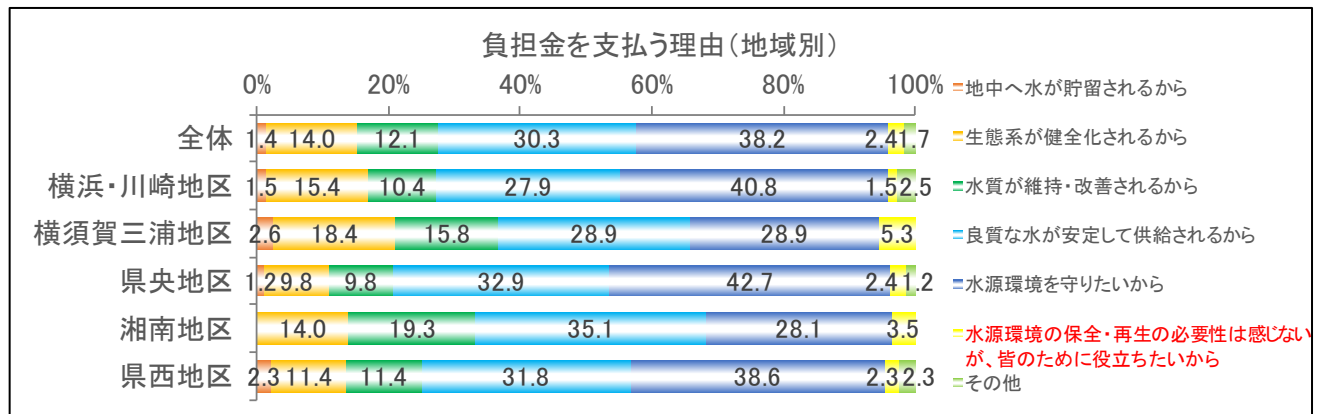


	森林整備に伴う下層植生の回復により、土壌が流出しにくくなる	森林整備により、降った雨が早く流れ出すようになる	生態系に配慮した水路・河川整備等により、野生生物等の生息環境が維持され、水質も改善される	生活排水対策や地下水の水位・水質の維持により、水源水質が維持される	合計
全体	5.3	76.5	6.4	11.9	100.0
横浜・川崎地区	5.7	76.8	5.9	11.6	100.0
横須賀三浦地区	5.8	76.8	7.2	10.1	100.0
県央地区	2.9	77.1	7.6	12.4	100.0
湘南地区	8.7	70.9	5.8	14.6	100.0
県西地区	3.4	80.7	5.7	10.2	100.0

※赤字を回答した場合、有効サンプルと判断

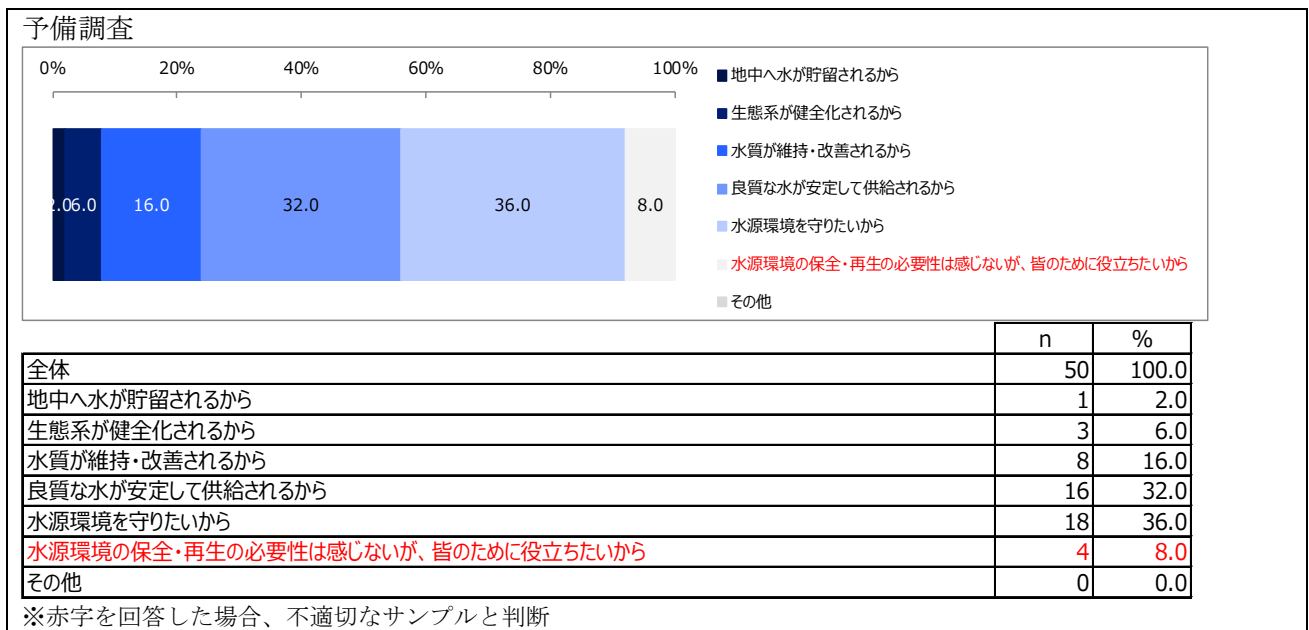


【問 7】



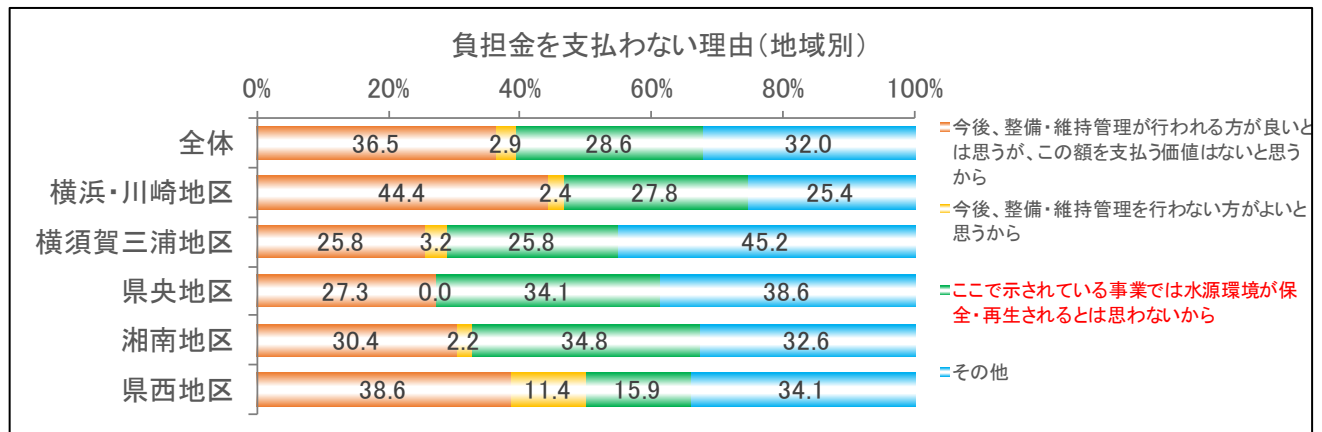
	地中へ水が貯留されるから	生態系が健全化されるから	水質が維持・改善されるから	良質な水が安定して供給されるから	水源環境を守りたいから	水源環境の保全・再生の必要性は感じないが、皆のために役立ちたいから	その他	合計
全体	1.4	14.0	12.1	30.3	38.2	2.4	1.7	100.0
横浜・川崎地区	1.5	15.4	10.4	27.9	40.8	1.5	2.5	100.0
横須賀三浦地区	2.6	18.4	15.8	28.9	28.9	5.3	0.0	100.0
県央地区	1.2	9.8	9.8	32.9	42.7	2.4	1.2	100.0
湘南地区	0.0	14.0	14.0	19.3	35.1	28.1	3.5	100.0
県西地区	2.3	11.4	11.4	31.8	38.6	2.3	2.3	100.0

※赤字を回答した場合、不適切なサンプルと判断



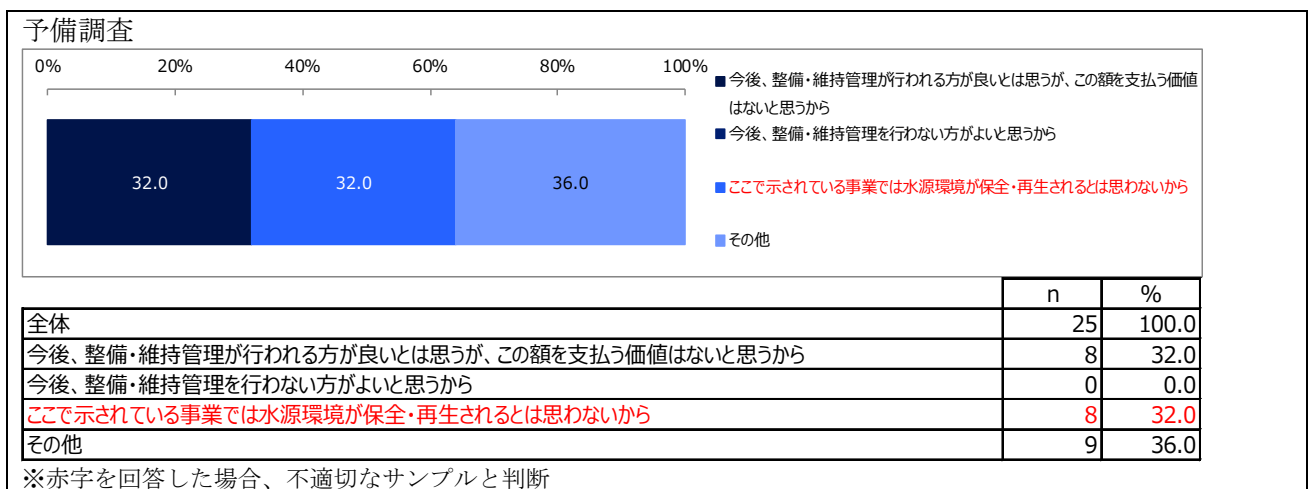
※赤字を回答した場合、不適切なサンプルと判断

【問 8】



	今後、整備・維持管理が行われる方が良いと思うが、この額を支払う価値はないと思うから	今後、整備・維持管理を行わない方がよいと思うから	ここで示されている事業では水源環境が保全・再生されるとは思わないから	その他	合計
全体	36.5	2.9	28.6	32.0	100.0
横浜・川崎地区	44.4	2.4	27.8	25.4	100.0
横須賀三浦地区	25.8	3.2	25.8	45.2	100.0
県央地区	27.3	0.0	34.1	38.6	100.0
湘南地区	30.4	2.2	34.8	32.6	100.0
県西地区	38.6	11.4	15.9	34.1	100.0

※赤字を回答した場合、不適切なサンプルと判断



※赤字を回答した場合、不適切なサンプルと判断

2) WTP 推定

本調査における提示額を検討するため、「有効回答の抽出」で整理した有効サンプルを用いてパラメトリック法によりWTP を推計した。

推計に用いた対数線形ロジットモデルとワイブル生存分析のうち、より適合度の高いワイブル生存分析を推計モデルとして採用した。

なお、WTP 平均値の算出においては、過大評価を避けるため最大提示額で裾切りを行った。

表 20 WTP 推定値

		n 数	対数線形ロジットモデル			ワイブル生存分析		
			対数尤度	WTP (円/月・世帯)		対数尤度	WTP (円/月・世帯)	
				中央値	平均値 ^{※3}		中央値	平均値 ^{※3}
前回結果 (平成26年度)		690	-944.60	453	982	-928.88	480	887
今回 結果 (令和4 年度)	事業理解 度の設問 あり ^{※1}	437	-583.199	521	1,029	-581.296	558	964
	事業理解 度の設問 なし ^{※2}	682	-918.523	432	978	-915.232	459	913

※1：問7で「6」または問8で「3」と回答した回答者、問2で「3」、問3で「2」と回答した回答者をすべて除外。

※2：問7で「6」または問8で「3」と回答した回答者をすべて除外。

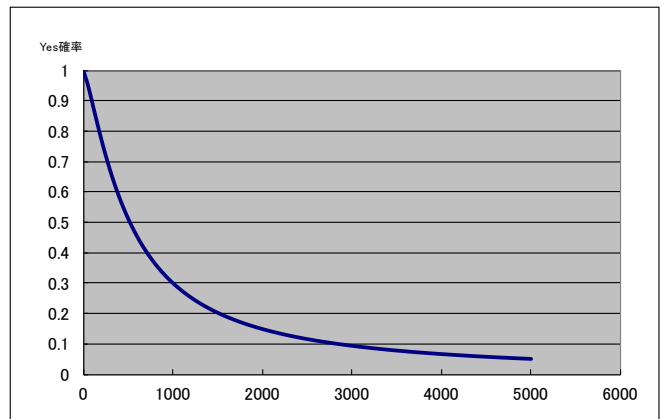
※3：裾切りあり

■有効サンプルによる WTP 推計結果（事業理解度の設問あり）

【対数線形ロジットモデル】

変数	係数	t 値	p 値
constant	7.0060	19.529	0.000 ***
ln(Bid)	-1.1546	-20.237	0.000 ***
n	682		
対数尤度	-918.523		

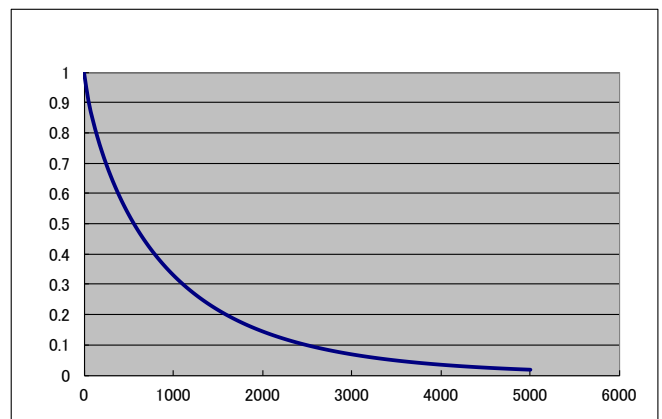
WTP	円/月	円/年	
中央値	432	5,184	
平均値	2,877	34,524	裾切りなし
	978	11,736	最大提示額で裾切り



【ワイブル生存分析】

変数	係数	t値	p値
Location	6.6442	105.796	0.000 ***
Scale	1.4059	22.608	0.000 ***
n	682		
対数尤度	-915.232		

WTP	円/月	円/年	
中央値	459	5,508	
平均値	958	11,496	裾切りなし
	913	10,956	最大提示額で裾切り

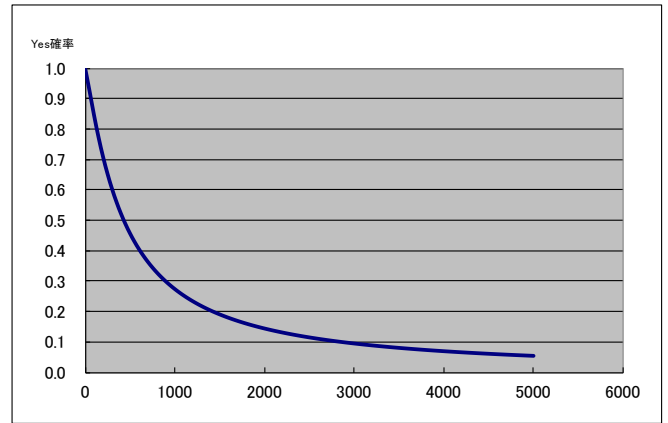


■有効サンプルによる WTP 推計結果（事業理解度の設問なし）

【対数線形ロジットモデル】

変数	係数	t 値	p 値	
constant	8.1012	16.563	0.000	***
ln(Bid)	-1.2951	-16.919	0.000	***
n	437			
対数尤度	-583.199			

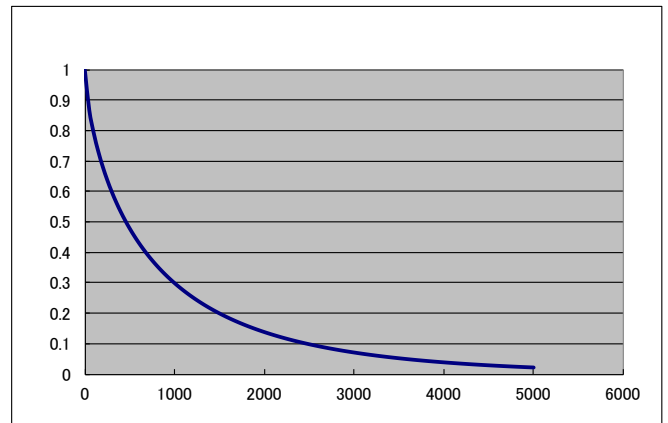
WTP	円/月	円/年	
中央値	521	6,252	
平均値	1,925	23,100	裾切りなし
	1,029	12,348	最大提示額で裾切り



【ワイブル生存分析】

変数	係数	t 値	p 値	
Location	6.7790	98.218	0.000	***
Scale	1.2407	18.566	0.000	***
n	437			
対数尤度	-581.296			

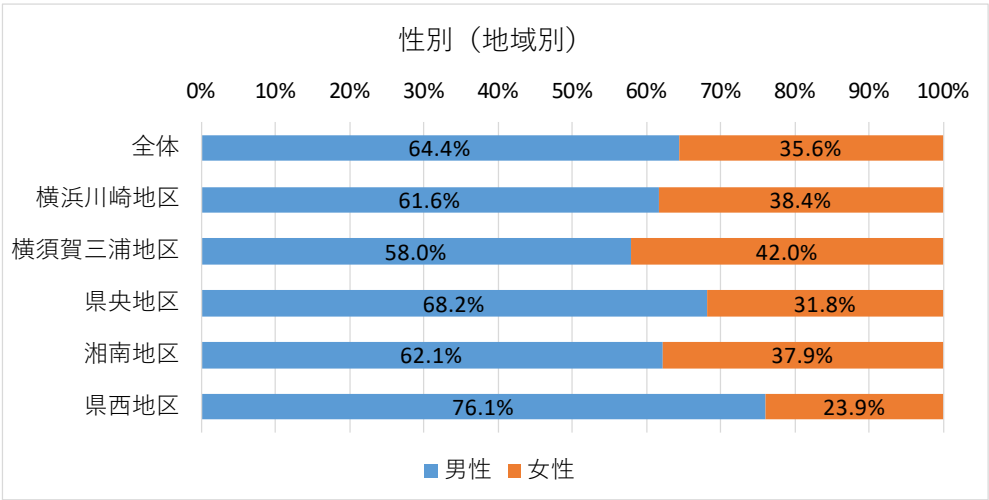
WTP	円/月	円/月	
中央値	558	6,696	
平均値	991	11,892	裾切りなし
	964	11,568	最大提示額で裾切り



回答者の属性データ

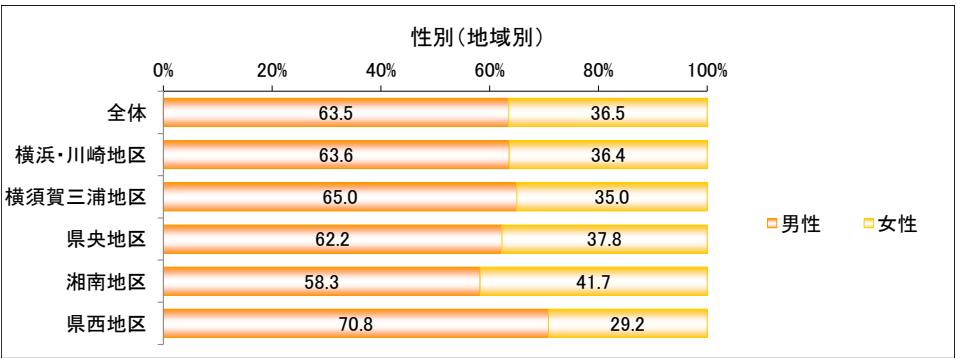
■性別

- ・神奈川県全体では、64％が男性で、36％が女性であり、平成26年本調査結果と概ね同様の毛傾向である。
- ・横須賀三浦地区は神奈川県全体と比べ、女性の割合が少し高く、県央地区は男性の割合が少し高い。



	男性	女性	合計
合計	515	285	800
横浜川崎地区	228	142	370
横須賀三浦地区	40	29	69
県央地区	116	54	170
湘南地区	64	39	103
県西地区	67	21	88

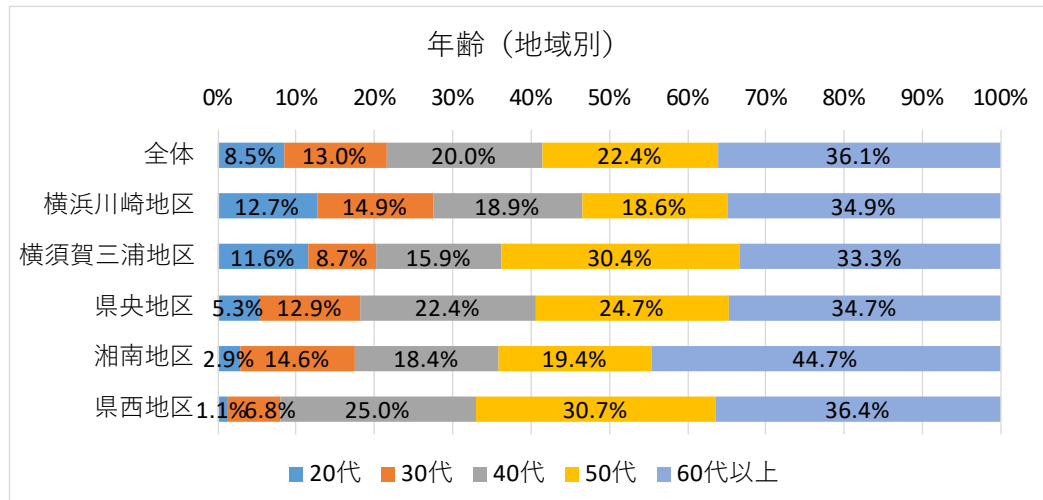
平成26年本調査結果



	男性	女性	合計
全体	508	292	800
横浜・川崎地区	250	143	393
横須賀三浦地区	39	21	60
県央地区	89	54	143
湘南地区	67	48	115
県西地区	63	26	89

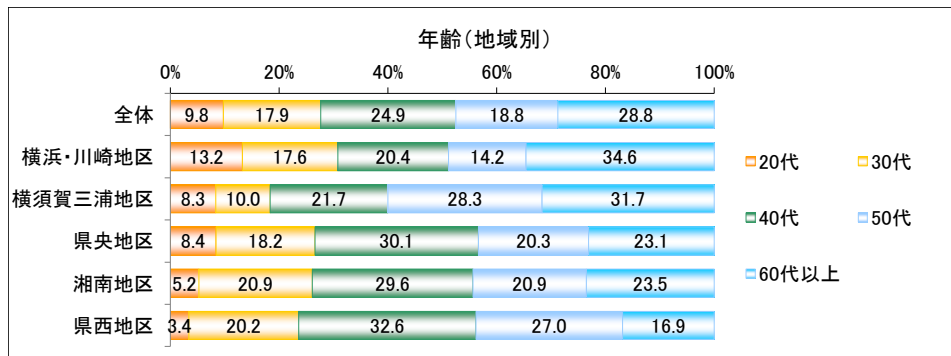
■年齢

- ・神奈川県全体では、60代以上が最も多い。
- ・平成26年と比べ、20代と30代の割合が少し低い。



	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
全体	68	104	160	179	289	800
横浜・川崎地区	47	55	70	69	129	370
横須賀三浦地区	8	6	11	21	23	69
県央地区	9	22	38	42	59	170
湘南地区	3	15	19	20	46	103
県西地区	1	6	22	27	32	88

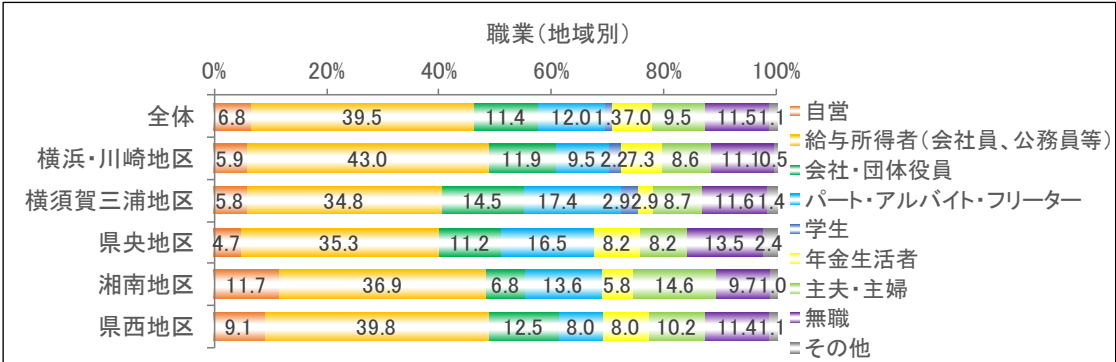
平成26年本調査結果



	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
全体	78	143	199	150	230	800
横浜・川崎地区	52	69	80	56	136	393
横須賀三浦地区	5	6	13	17	19	60
県央地区	12	26	43	29	33	143
湘南地区	6	24	34	24	27	115
県西地区	3	18	29	24	15	89

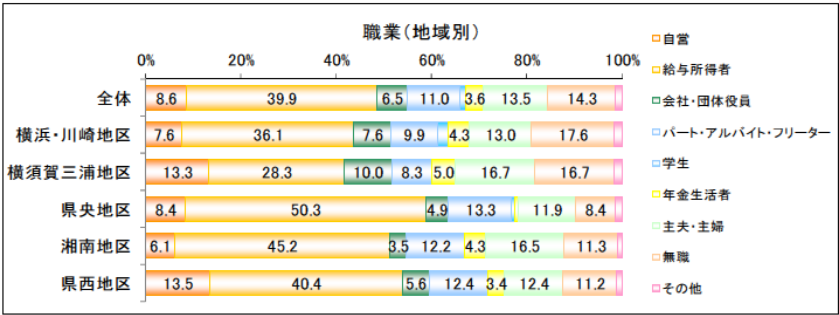
問48：職業

・神奈川県全体では、給与所得者の割合が最も高く、平成26年と概ね同様の傾向である。



	自営	給与所得者(会社員、公務員等)	会社・団体役員	パート・アルバイト・フリーター	学生	年金生活者	主夫・主婦	無職	その他	合計
全体	54	316	91	96	10	56	76	92	9	800
横浜・川崎地区	22	159	44	35	8	27	32	41	2	370
横須賀三浦地区	4	24	10	12	2	2	6	8	1	69
県央地区	8	60	19	28		14	14	23	4	170
湘南地区	12	38	7	14		6	15	10	1	103
県西地区	8	35	11	7		7	9	10	1	88

平成26年本調査結果



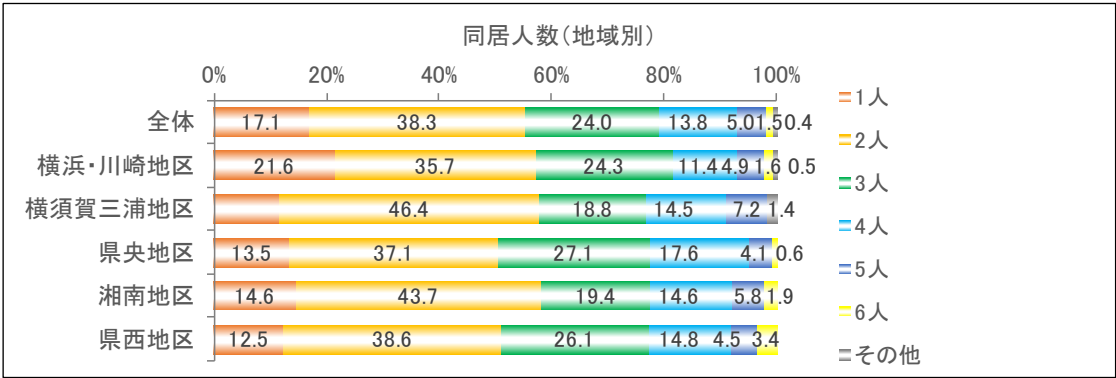
	自営	給与所得者(会社員、公務員等)	会社・団体役員	パート・アルバイト・フリーター	学生	年金生活者	主夫・主婦	無職	その他	合計
全体	69	319	52	88	10	29	108	114	11	800
横浜・川崎地区	30	142	30	39	9	17	51	69	6	393
横須賀三浦地区	8	17	6	5	0	3	10	10	1	60
県央地区	12	72	7	19	1	1	17	12	2	143
湘南地区	7	52	4	14	0	5	19	13	1	115
県西地区	12	36	5	11	0	3	11	10	1	89

【その他の内容】

- ・ 専門職：1
- ・ 家事手伝い：1
- ・ 起業準備：1
- ・ 看護師：1
- ・ 医療：1
- ・ 投資関係：1
- ・ 時間講師：1
- ・ 自由業：1
- ・ 派遣社員：1
- ・ 嘱託社員：1
- ・ 団体職員：1

問49：世帯の人数

- ・ 神奈川県全体では、世帯人数2人の割合が最も高く、平成26年と概ね同様の傾向である。
- ・ 世帯の人数が3～4人が、平成26年と比べ、5%ほど減少している。

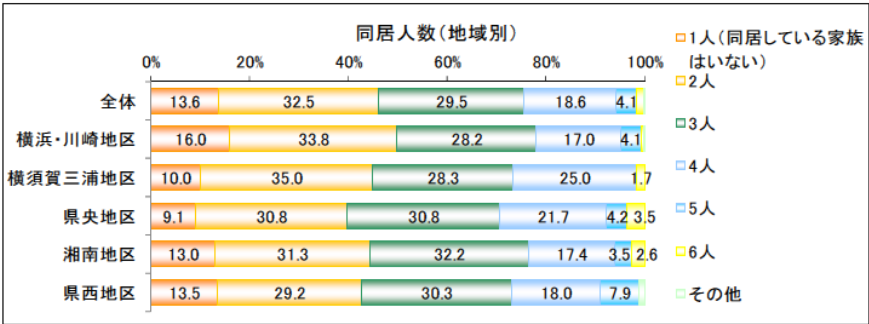


	1人	2人	3人	4人	5人	6人	その他	合計
全体	137	306	192	110	40	12	3	800
横浜・川崎地区	80	132	90	42	18	6	2	370
横須賀三浦地区	8	32	13	10	5		1	69
県央地区	23	63	46	30	7	1		170
湘南地区	15	45	20	15	6	2		103
県西地区	11	34	23	13	4	3		88

【その他の内容】

- ・ 7人：1
- ・ 8人：2

平成26年本調査結果



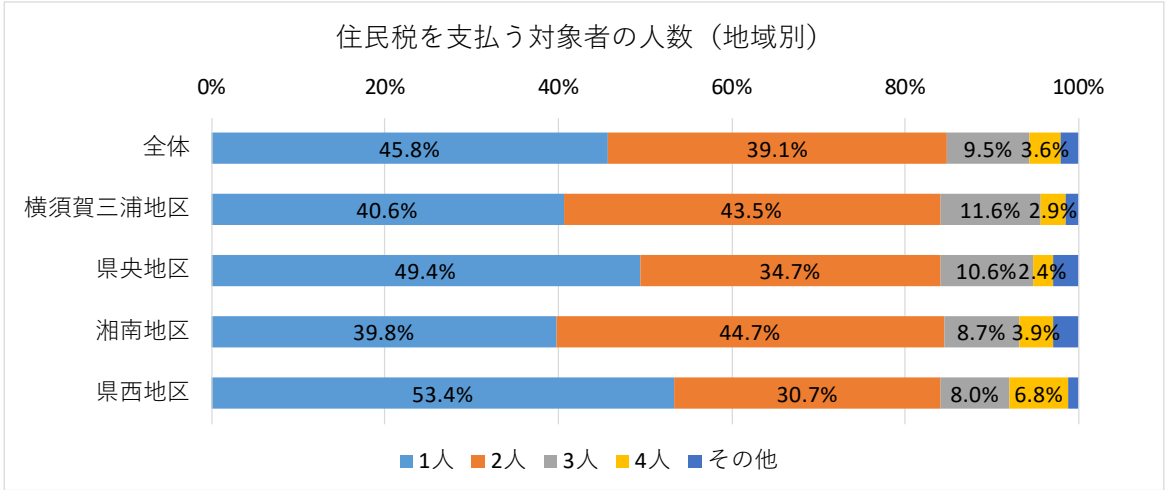
	1人(同居している家族はいない)	2人	3人	4人	5人	6人	その他	合計
全体	109	260	236	149	33	11	2	800
横浜・川崎地区	63	133	111	67	16	2	1	393
横須賀三浦地区	6	21	17	15	0	1	0	60
県央地区	13	44	44	31	6	5	0	143
湘南地区	15	36	37	20	4	3	0	115
県西地区	12	26	27	16	7	0	1	89

【その他の内容】

- ・ 7人：2

■問50：世帯中、住民税を支払う対象者の人数

・神奈川県全体では、住民税を支払う対象者は1～2人が過半数を占めており、平成26年と同様の傾向である。

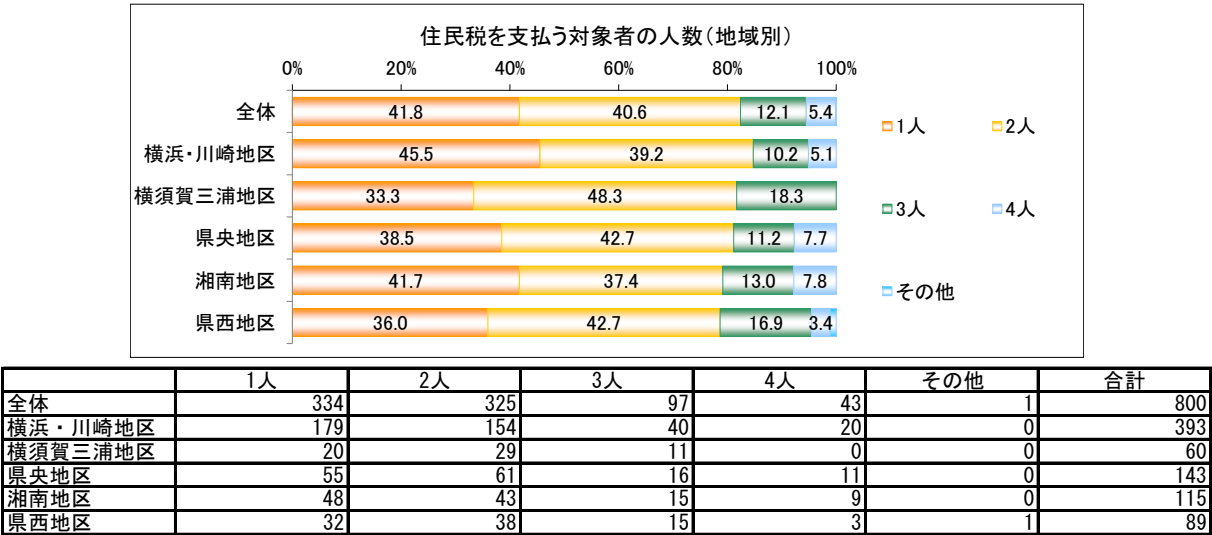


	1人	2人	3人	4人	その他	合計
全体	366	313	76	29	16	800
横浜川崎地区	166	151	34	13	6	370
横須賀三浦地区	28	30	8	2	1	69
県央地区	84	59	18	4	5	170
湘南地区	41	46	9	4	3	103
県西地区	47	27	7	6	1	88

【その他の内容】

- ・0人：12
- ・5人：4

平成26年本調査結果

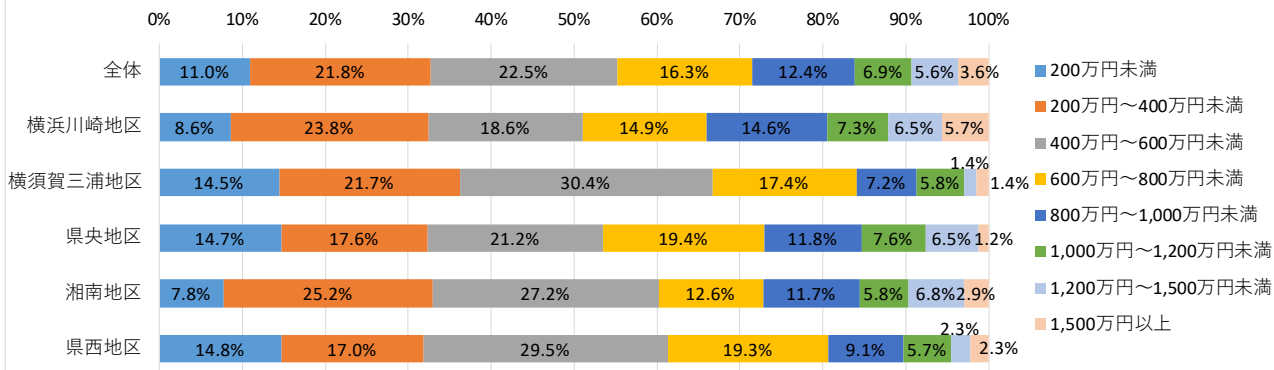


【その他の内容】 わからない：1

■問51：【任意回答】世帯全体の収入

- ・神奈川県全体では、平成26年と概ね同様の傾向である。
- ・横須賀三浦地区の400～600万円未満の割合が全体より少し高い。

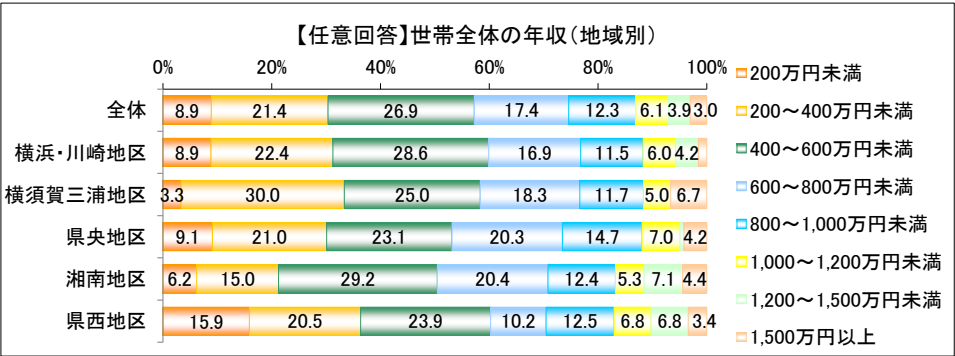
【任意回答】世帯全体の年収（地域別）



	200万円未満	200万円～400万円未満	400万円～600万円未満	600万円～800万円未満	800万円～1,000万円未満	1,000万円～1,200万円未満	1,200万円～1,500万円未満	1,500万円以上	合計
全体	88	174	180	130	99	55	45	29	800
横浜川崎地区	32	88	69	55	54	27	24	21	370
横須賀三浦地区	10	15	21	12	5	4	1	1	69
県央地区	25	30	36	33	20	13	11	2	170
湘南地区	8	26	28	13	12	6	7	3	103
県西地区	13	15	26	17	8	5	2	2	88

平成26年本調査結果

【地域別】



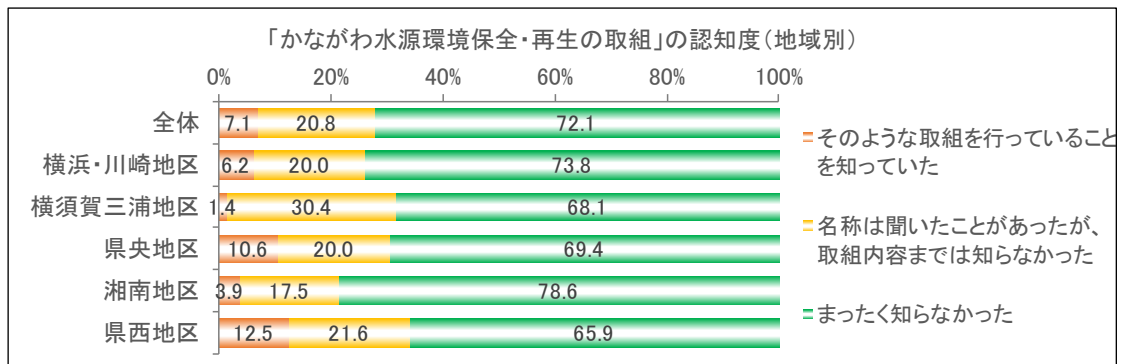
	200万円未満	200～400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満	800～1,000万円未満	1,000～1,200万円未満	1,200～1,500万円未満	1,500万円以上	合計
全体	70	169	212	137	97	48	31	24	788
横浜・川崎地区	34	86	110	65	44	23	16	6	384
横須賀三浦地区	2	18	15	11	7	3	0	4	60
県央地区	13	30	33	29	21	10	1	6	143
湘南地区	7	17	33	23	14	6	8	5	113
県西地区	14	18	21	9	11	6	6	3	88

(11) 単純集計の結果

問1:「かながわ水源環境保全・再生の取組」に対する認知度

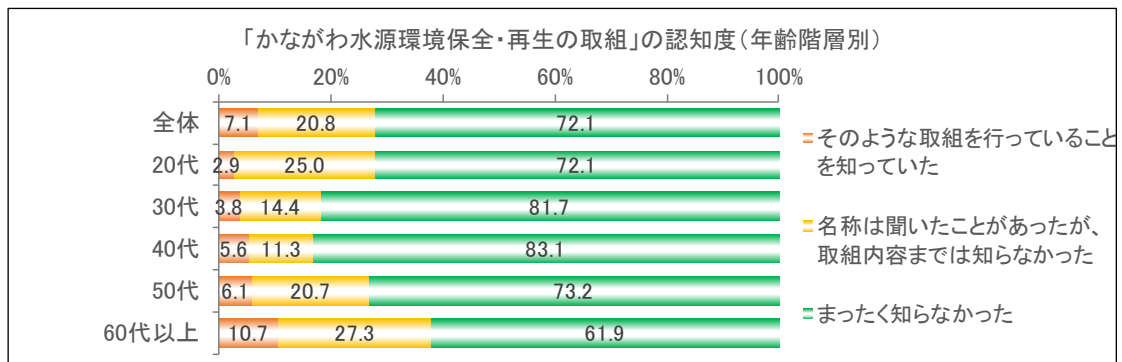
- ・神奈川県全体では、72.1%が「かながわ水源環境保全・再生の取組」のことをまったく知らなかった人であり、取組を行っていることを知っていた人は、7.1%にとどまっている。
- ・県西地区は他の地区に比べて、取組内容を知っていた割合が12.5%と高く、前回調査（平成26年調査）と同様の傾向である。
- ・年齢階層別では、前回調査は、年齢が高くなるほど認知度が高い傾向であったが、今年度調査は、20代が27.9%と神奈川県全体と概ね同様の認知度であり、30代が18.2%と神奈川県全体より低い認知度であった。30代から60代以上にかけて認知度は高くなる傾向にある。

【地域別】



	そのような取組を行っていることを知っていた	名称は聞いたことがあったが、取組内容までは知らなかった	まったく知らなかった	合計
全体	57	166	577	800
横浜・川崎地区	23	74	273	370
横須賀三浦地区	1	21	47	69
県央地区	18	34	118	170
湘南地区	4	18	81	103
県西地区	11	19	58	88

【年齢階層別】

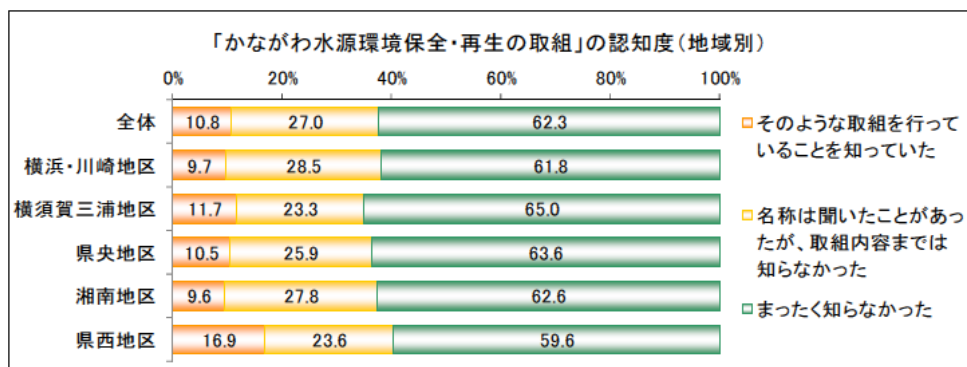


	そのような取組を行っていることを知っていた	名称は聞いたことがあったが、取組内容までは知らなかった	まったく知らなかった	合計
全体	57	166	577	800
20代	2	17	49	68
30代	4	15	85	104
40代	9	18	133	160
50代	11	37	131	179
60代以上	31	79	179	289

平成26年本調査結果

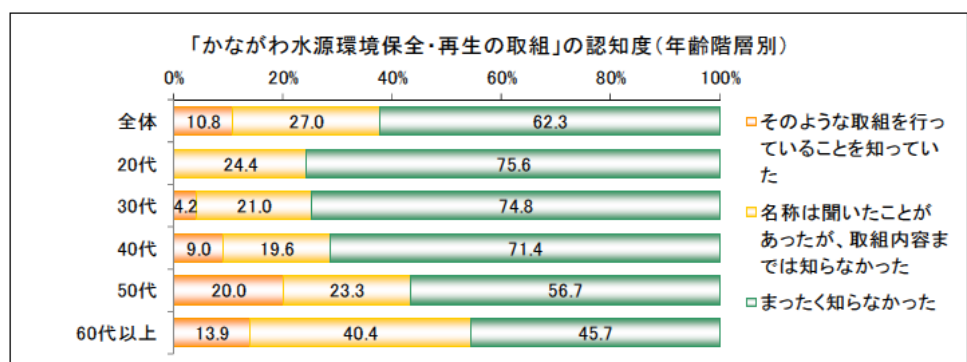
- ・神奈川県全体では、約 6 割が「かながわ水源環境保全・再生の取組」のことを全く知らず、取組内容まで知っていた人は約 1 割にとどまっている。
- ・県西地区は他の地区に比べて、取組内容を知っていた割合が 16.9% と高い。
- ・年齢が高くなるほど認知度が高くなる傾向にある。

【地域別】



	そのような取組を行っていることを知っていた	名称は聞いたことがあったが、取組内容までは知らなかった	まったく知らなかった	合計
全体	86	216	498	800
横浜・川崎地区	38	112	243	393
横須賀三浦地区	7	14	39	60
県央地区	15	37	91	143
湘南地区	11	32	72	115
県西地区	15	21	53	89

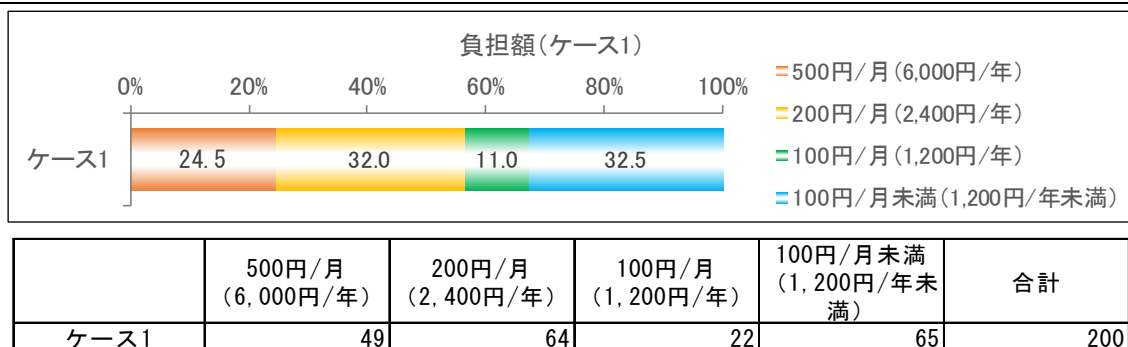
【年齢階層別】



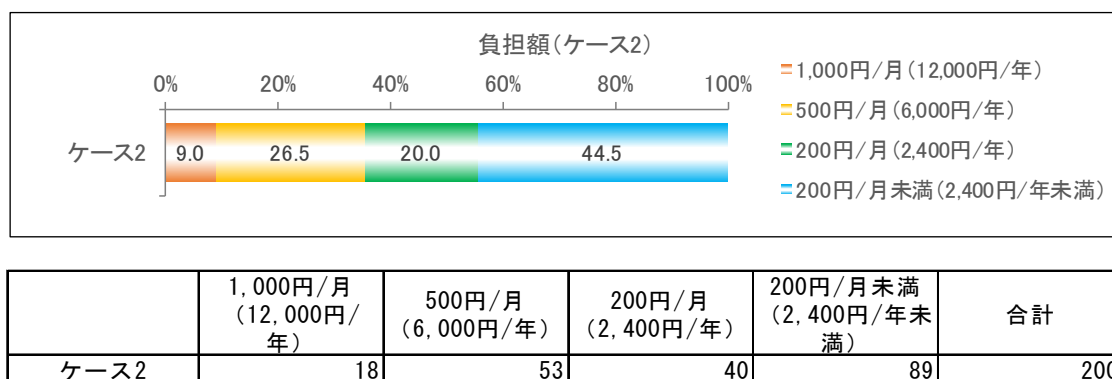
	そのような取組を行っていることを知っていた	名称は聞いたことがあったが、取組内容までは知らなかった	まったく知らなかった	合計
全体	86	216	498	800
20代	0	19	59	78
30代	6	30	107	143
40代	18	39	142	199
50代	30	35	85	150
60代以上	32	93	105	230

問 4～問 6：【ケース 1】事業後の状況を維持するために支払っても良いと思う「負担金」の金額

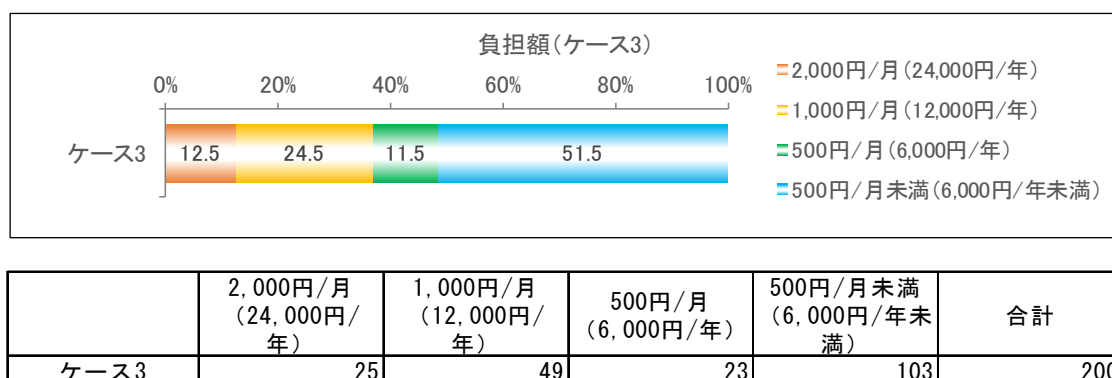
- ・ ケース1からケース4にかけて提示額を段階的に高く設定しているが、それに伴い負担額に賛成できない割合が高くなっている。



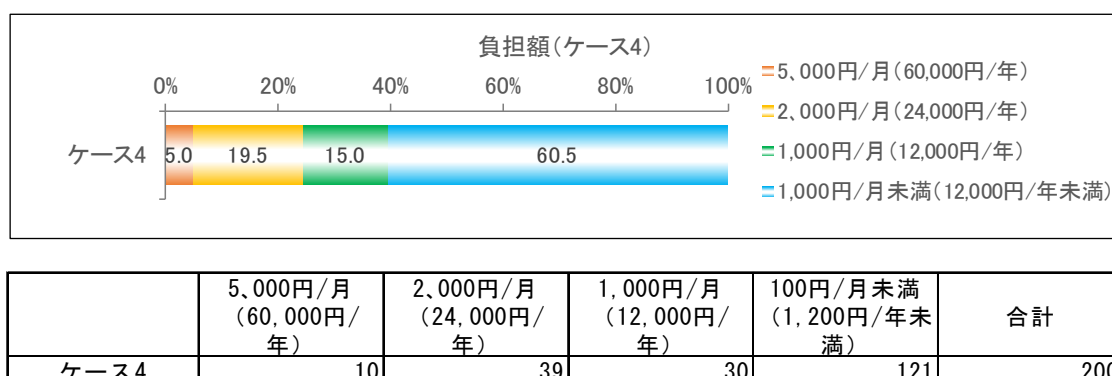
問 9～問 11：【ケース 2】事業後の状況を維持するために支払っても良いと思う「負担金」の金額



問 14～問 16：【ケース 3】事業後の状況を維持するために支払っても良いと思う「負担金」の金額



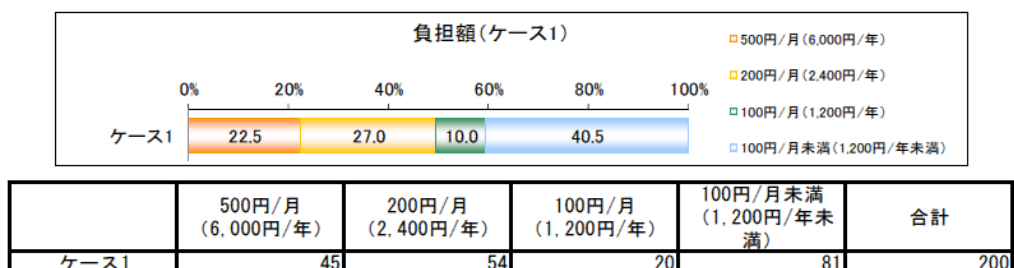
問 19～問 21：【ケース 4】事業後の状況を維持するために支払っても良いと思う「負担金」の金額



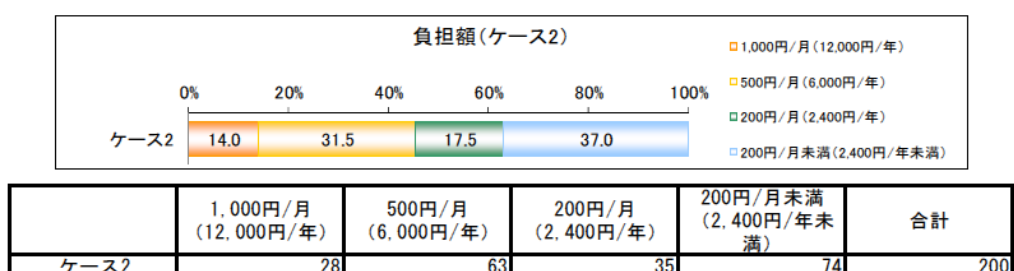
平成26年本調査結果

- ・ ケース 1 からケース 4 にかけて提示額を段階的に高くしているが、それに伴い最初の提示額に賛成する割合が低くなり、理論的に合致している。

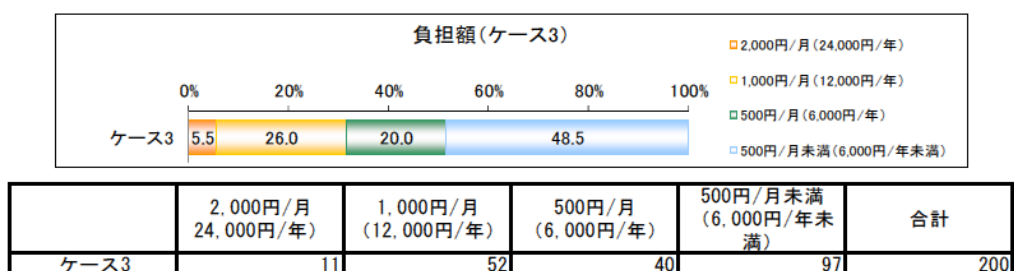
【ケース 1】



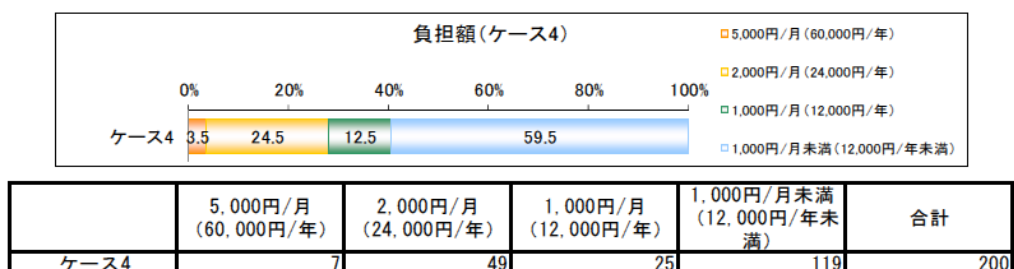
【ケース 2】



【ケース 3】



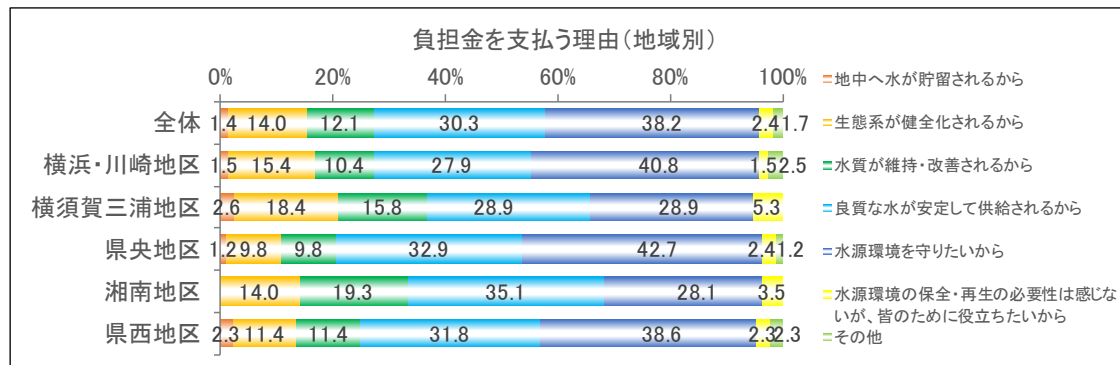
【ケース 4】



問 7、問 12、問 17、問 22：問 4、問 9、問 14、問 19 で負担金を支払う理由

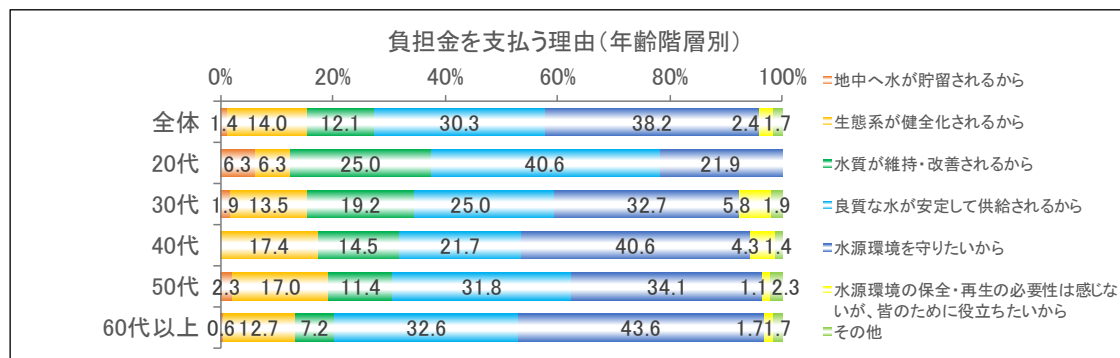
- ・負担金を支払う理由として、全体では、「水源環境を守りたいから」が38.2%と最も高く、次いで「良質な水が安定して供給されるから」が30.3%であった。
- ・湘南地区は、他地区と比べて「良質な水が安定して供給されるから」が35.1%と高く、「地中へ水が貯留されるから」が0%であり、傾向がやや異なっている。
- ・年齢が高くなるほど「水質が維持・改善されるから」の割合が小さくなり、一方で「水源環境を守りたいから」「生態系が健全化されるから」に負担金を支払う価値を見出している。

【地域別】



	地中へ水が貯留されるから	生態系が健全化されるから	水質が維持・改善されるから	良質な水が安定して供給されるから	水源環境を守りたいから	水源環境の保全・再生の必要性は感じないが、皆のために役立ちたいから	その他	合計
全体	6	59	51	128	161	10	7	422
横浜・川崎地区	3	31	21	56	82	3	5	201
横須賀三浦地区	1	7	6	11	11	2	0	38
県央地区	1	8	8	27	35	2	1	82
湘南地区	0	8	11	20	16	2	0	57
県西地区	1	5	5	14	17	1	1	44

【年齢階層別】

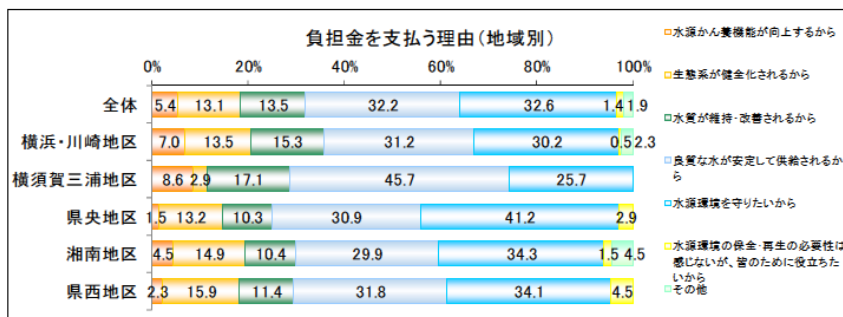


	地中へ水が貯留されるから	生態系が健全化されるから	水質が維持・改善されるから	良質な水が安定して供給されるから	水源環境を守りたいから	水源環境の保全・再生の必要性は感じないが、皆のために役立ちたいから	その他	合計
全体	6	59	51	128	161	10	7	422
20代	2	2	8	13	7	0	0	32
30代	1	7	10	13	17	3	1	52
40代	0	12	10	15	28	3	1	69
50代	2	15	10	28	30	1	2	88
60代以上	1	23	13	59	79	3	3	181

平成26年本調査結果

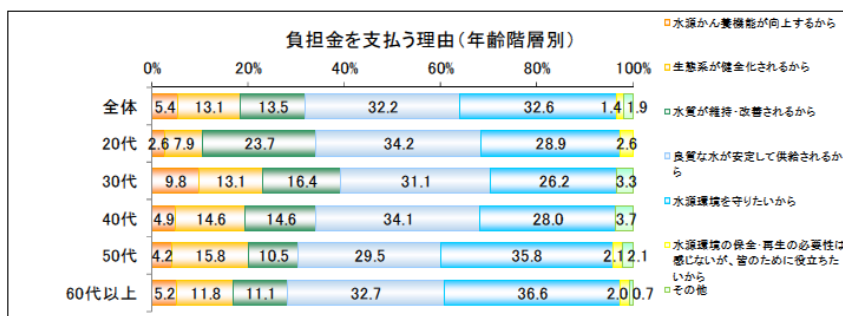
- ・負担金を支払う理由として、全体では「良質な水が安定して供給されるから」「水源環境を守りたいから」が同程度で高くなっている。
- ・横須賀三浦地区の場合は、他地区に比べて「良質な水が安定して供給されるから」が 45.7%と高く、一方、「水源環境を守りたいから」25.7%、「生態系が健全化されるから」は2.9%と低く、傾向がやや異なっている。
- ・年齢が高くなるほど「水質が維持・改善されるから」の割合が小さくなり、逆に「水源環境を守りたいから」に負担金を支払う価値を見出している。

【地域別】



	水源かん養機能が向上するから	生態系が健全化されるから	水質が維持・改善されるから	良質な水が安定して供給されるから	水源環境を守りたいから	水源環境の保全・再生の必要性は感じないが、皆のために役立ちたいから	その他	合計
全体	23	56	58	138	140	6	8	429
横浜・川崎地区	19	29	33	67	65	1	5	215
横須賀三浦地区	3	1	6	16	9	0	0	35
県央地区	1	9	7	21	28	2	0	68
湘南地区	3	10	7	20	23	1	3	67
県西地区	1	7	5	14	15	2	0	44

【年齢階層別】

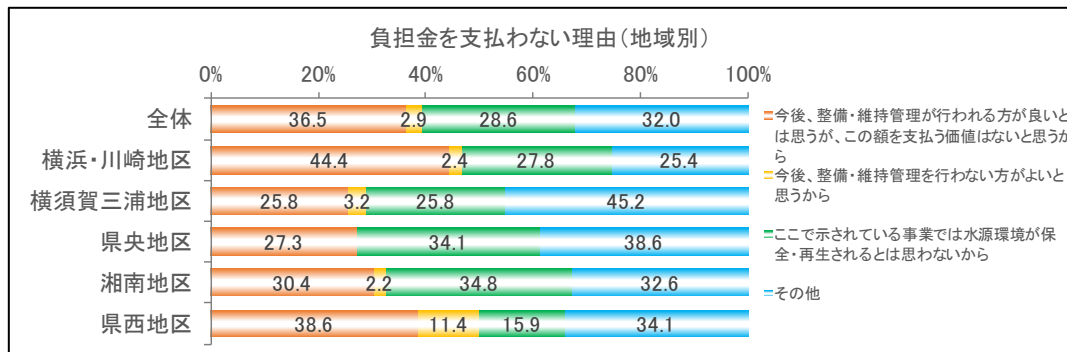


	水源かん養機能が向上するから	生態系が健全化されるから	水質が維持・改善されるから	良質な水が安定して供給されるから	水源環境を守りたいから	水源環境の保全・再生の必要性は感じないが、皆のために役立ちたいから	その他	合計
全体	23	56	58	138	140	6	8	429
20代	1	3	9	13	11	1	0	38
30代	6	8	10	19	16	0	2	61
40代	4	12	12	28	23	0	3	82
50代	4	15	10	28	34	2	2	95
60代以上	8	18	17	50	56	3	1	153

問 8、問 13、問 18、問 23：問 4、問 9、問 14、問 19 で負担金を支払わない理由

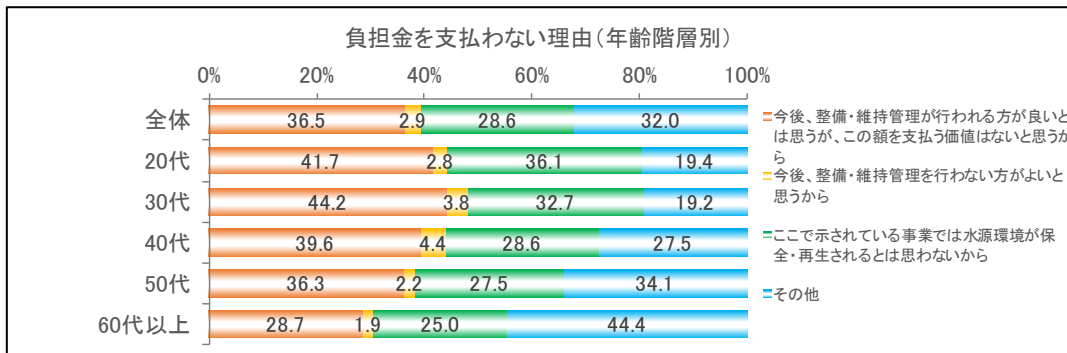
- ・全体では、負担金を支払う価値はないと回答した人が最も多く36.5%である。
- ・県央地区、湘南地区は、事業内容に疑問があり支払わないと回答した人が34～35%であり、県西地区は15.9%と少ない。

【地域別】



	今後、整備・維持管理が行われる方がよいと思うが、この額を支払う価値はないと思うから	今後、整備・維持管理を行わない方がよいと思うから	ここで示されている事業では水源環境が保全・再生されるとは思わないから	その他	合計
全体	138	11	108	121	378
横浜・川崎地区	75	4	47	43	169
横須賀三浦地区	8	1	8	14	31
県央地区	24	0	30	34	88
湘南地区	14	1	16	15	46
県西地区	17	5	7	15	44

【年齢階層別】

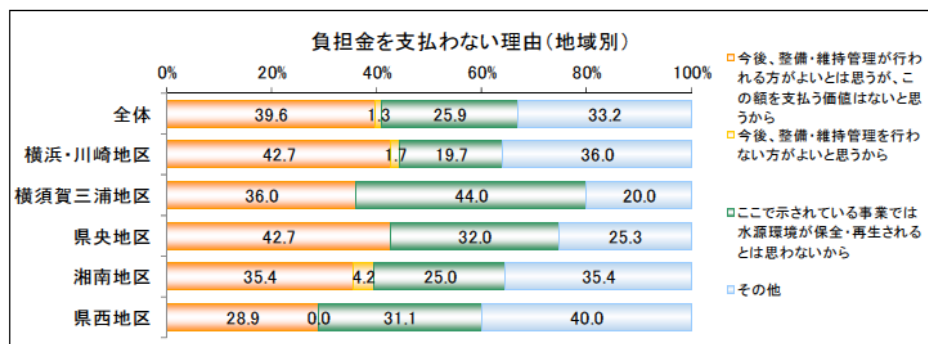


	今後、整備・維持管理が行われる方がよいと思うが、この額を支払う価値はないと思うから	今後、整備・維持管理を行わない方がよいと思うから	ここで示されている事業では水源環境が保全・再生されるとは思わないから	その他	合計
全体	138	11	108	121	378
20代	15	1	13	7	36
30代	23	2	17	10	52
40代	36	4	26	25	91
50代	33	2	25	31	91
60代以上	31	2	27	48	108

平成26年本調査結果

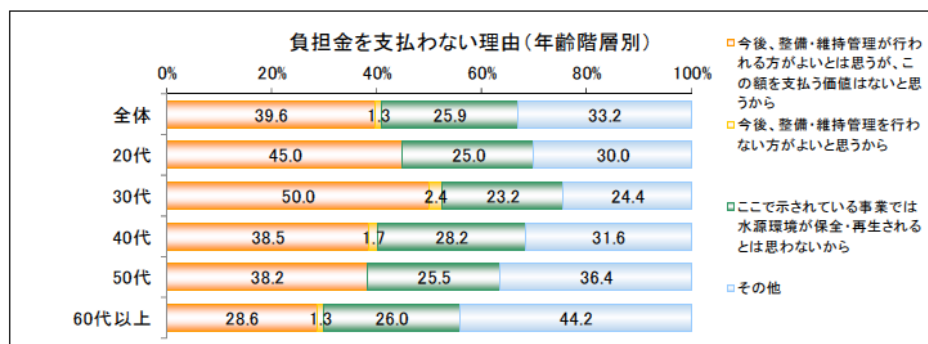
- ・全体では、提示された額が高いため支払わないと回答した人が最も多く 39.6%である。
- ・横須賀三浦地区は、この事業では保全・再生できないとして 44.0%が支払わないと回答している。逆に横浜・川崎地区では事業内容に疑問があり支払わないと回答した人は 19.7%と少ない。
- ・年齢が低いほうが提示額に見合った価値を見いだせず、支払わないと回答する傾向にある。

【地域別】



	今後、整備・維持管理が行われる方がよいと思うが、この額を支払う価値はないと思うから	今後、整備・維持管理を行わない方がよいと思うから	ここで示されている事業では水源環境が保全・再生されるとは思わないから	その他	合計
全体	147	5	96	123	371
横浜・川崎地区	76	3	35	64	178
横須賀三浦地区	9	0	11	5	25
県央地区	32	0	24	19	75
湘南地区	17	2	12	17	48
県西地区	13	0	14	18	45

【年齢階層別】

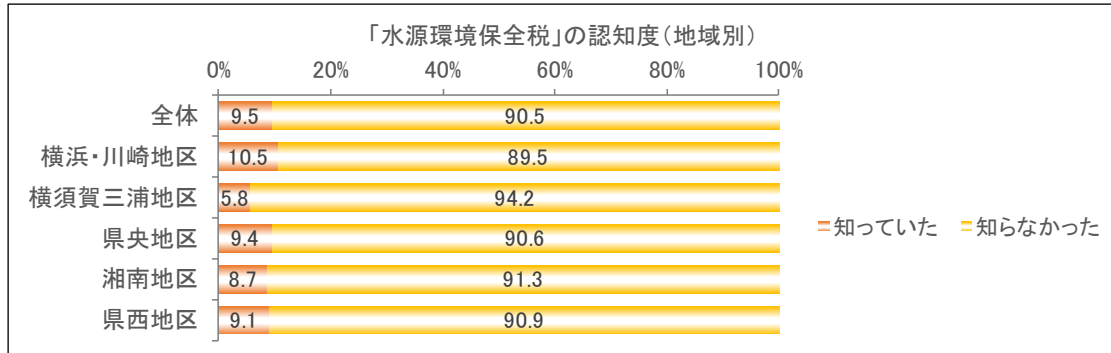


	今後、整備・維持管理が行われる方がよいと思うが、この額を支払う価値はないと思うから	今後、整備・維持管理を行わない方がよいと思うから	ここで示されている事業では水源環境が保全・再生されるとは思わないから	その他	合計
全体	147	5	96	123	371
20代	18	0	10	12	40
30代	41	2	19	20	82
40代	45	2	33	37	117
50代	21	0	14	20	55
60代以上	22	1	20	34	77

問 47：「水源環境保全税」に対する認知度

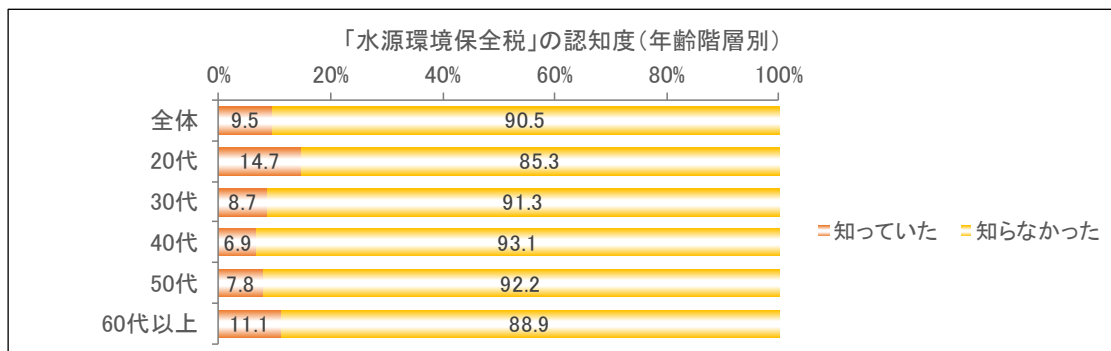
- ・水源環境保全税に関する認知度は低く、既知の人は全体で9.5%であり、前回調査から5.5%減少している。
- ・地区別では、横浜・川崎地区が全体平均よりも高く、横須賀三浦地区が最も低くなっている。
- ・年齢階層別では、全体平均に比べ、20代と60代以上で「水源環境保全税」を知っている人が多い。

【地域別】



	知っている	知らなかった	合計
全体	76	724	800
横浜・川崎地区	39	331	370
横須賀三浦地区	4	65	69
県央地区	16	154	170
湘南地区	9	94	103
県西地区	8	80	88

【年齢階層別】

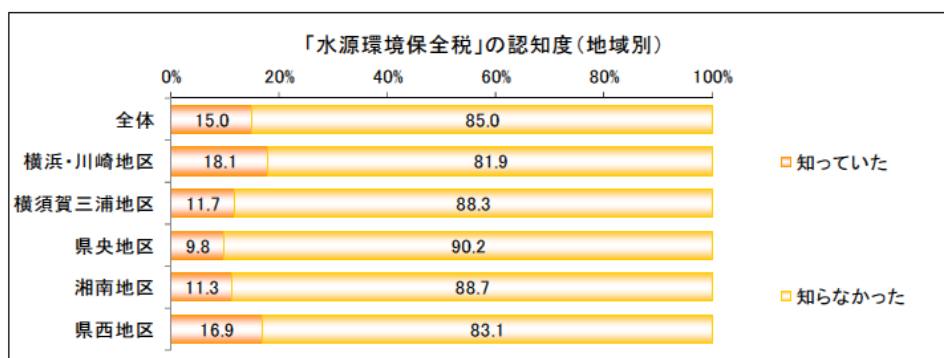


	知っている	知らなかった	合計
全体	76	724	800
20代	10	58	68
30代	9	95	104
40代	11	149	160
50代	14	165	179
60代以上	32	257	289

平成26年本調査結果

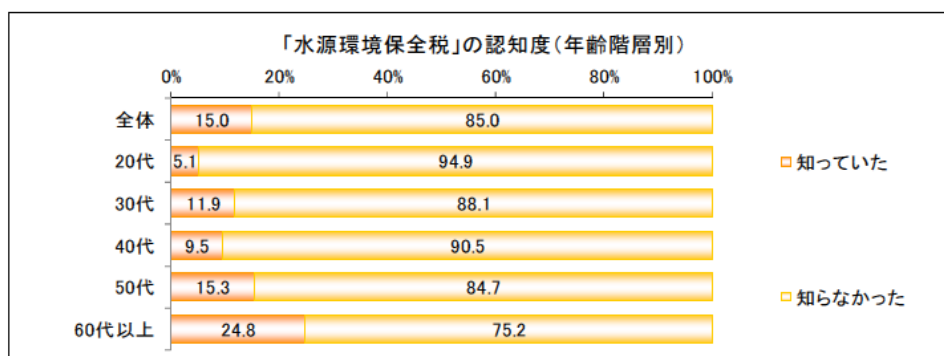
- ・水源環境保全税に関する認知度は低く、既知の人は全体で 15.0%にとどまっている。
- ・地域別では、横浜・川崎地区と県西地区が全体平均よりも高く、県央地区が最も低くなっている。
- ・年齢階層別では、既知の割合が 40 代で落ち込んでいるものの、年齢が高くなるほど知っている人が多くなる傾向にある。

【地域別】



	知っていた	知らなかった	合計
全体	120	680	800
横浜・川崎地区	71	322	393
横須賀三浦地区	7	53	60
県央地区	14	129	143
湘南地区	13	102	115
県西地区	15	74	89

【年齢階層別】



	知っていた	知らなかった	合計
全体	120	680	800
20代	4	74	78
30代	17	126	143
40代	19	180	199
50代	23	127	150
60代以上	57	173	230

かながわ水源環境保全・再生施策による経済的価値

かながわ水源環境保全・再生施策が神奈川県民に及ぼす価値は、世帯当たりの WTP に神奈川県の世帯数を乗じることで算出される。

算出にあたっては、神奈川県全体の世帯においても、本調査と同様に抵抗回答が生じることを踏まえ、過大評価とならないよう有効回答率を乗じた。

また、より事業を理解した上で WTP を回答いただいた有効サンプル(事業理解度の設問あり)から推計した WTP も算出した。

その結果、かながわ水源環境保全・再生施策による経済的価値は、事業理解度の設問ありの有効サンプルでは 272 億円であり、有効サンプル(平成 26 年度調査時と同条件)は、402 億円となった。

＜経済価値の算定条件＞

- ・ 対数尤度が高かった有効サンプル・生存分析(ワイブル分析)の WTP を採用
- ・ 世帯数を乗じて神奈川県全体での評価を行うことから WTP 平均値を採用
- ・ 現在の世帯数を用いて経済的価値を算定
- ・ 有効回答率を考慮
- ・ 事業理解度の設問あり・なしでの 2 パターンで算出

【かながわ水源環境保全・再生施策による経済的価値】

有効サンプル(事業理解度の設問あり)平均値による経済的価値

$$\begin{aligned} &= \text{支払意思額 (WTP) [円/月]} \times 12 \text{ヶ月} \times \text{受益範囲の世帯数[世帯数]} \times \text{有効回答率} \\ &= 964 \text{ 円/月} \times 12 \text{ヵ月} \times 4,310,944 \text{ 世帯} \times 54.6 \% \\ &= 272.2 \text{ 億円/年} \end{aligned}$$

有効サンプル平均値による経済的価値

$$\begin{aligned} &= \text{支払意思額 (WTP) [円/月]} \times 12 \text{ヶ月} \times \text{受益範囲の世帯数[世帯数]} \\ &= 913 \text{ 円/月} \times 12 \text{ヵ月} \times 4,310,944 \text{ 世帯} \times 85.3 \% \\ &= 402.3 \text{ 億円/年} \end{aligned}$$